

平成29年 7月19日

小野市議会議長 山中修己 様

総務文教常任委員会

川名善三

印

行政視察報告書

先般、実施しました 総務文教常任委員会 行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 平成29年7月5日（水）～平成29年7月7日（金）

2 視察メンバー

- ・山中修己・前田光教・高坂純子・小林千津子・河島信行・平田真実・富田和也
- ・川名善三

3 視察先及び調査内容

- (1) 佐賀県鹿島市（人口：約3万人、面積：112.12Km²）
スポーツ合宿誘致の取組について
- (2) 佐賀県神埼市（人口：約3万2千人、面積：125.13Km²）
放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的運営について
- (3) 長崎県佐世保市（人口：約25万7千人、面積：426.06Km²）
 - ①徳育の推進について
 - ②保幼小連携接続カリキュラムについて

4 調査結果

【第1日】

佐賀県鹿島市

人口：約3万人、面積：112.12Km²

《視察項目》

スポーツ合宿誘致の取組について



[鹿島市庁舎]

《視察内容》

平成23年8月に第60回記念鹿島祐徳ロードレース大会に関東学生陸上競技連盟所属大学4校（「明治大学」「東洋大学」「大東文化大学」「日本大学」）の初参加を契機として、連盟関係者が、陸上競技場とクロスカントリーコースが隣接しているという環境の良さに注目、スポーツ合宿の検討を示唆されたことから、市としてスポーツ合宿誘致事業を実施するに至った。陸上競技場（第3種公認）、クロスカントリーコース、グランドゴルフ場等の施設を持つ鹿島市蟻尾山公園を中心に、充実した練習環境を備えている。また、「鹿島市スポーツ合宿誘致事業交付金」として招聘団体や一般団体が市内スポーツ施設で合宿を行った場合、100万円又は30万円を限度として費用の一部を補助している。

（1）運営方法

「鹿島市スポーツ合宿誘致実行委員会」を組織化し事業運営

- ・実行委員長は市体育協会会長
- ・市教育委員会（生涯学習課）で合宿日程の調整や宿泊場所の手配などの実務を行う。

（2）練習環境について

- ・市街南西部に位置する「蟻尾山公園」（総合運動公園）内の施設が中心

① 鹿島市陸上競技場（日本陸連第3種公認）

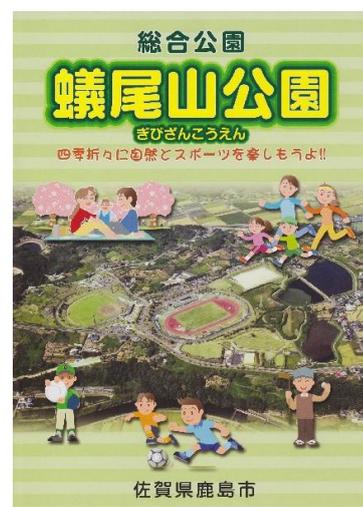
▶400mトラック8レーンなど

② 野球場

③ クロスカントリーコース

④ ミニスポーツ広場・サブグラウンド（フットサル、バスケットボールなど可）

⑤ グランドゴルフ場など



[陸上競技場]



[蟻尾山公園配置図]

（3）宿泊場所

- ・市内にはビジネスホテル1軒と市研修施設にて対応

（4）助成制度

「鹿島市スポーツ合宿誘致事業交付金」について

【優遇措置】

- ① 施設使用料の減免
- ② 市内移動時のレンタカー提供
- ③ 空港までの無料送迎

【助成制度】

- ・ 条件・・・①市内のスポーツ施設で実施
- ②連続した日程で実施
- ③練習を公開

《招聘団体》

宿泊⇒延べ100人以上

交付額⇒100万円上限（宿泊費、交通費の総額の2分の1以内）

その他⇒市内学校などへの訪問等の交流事業を実施

《一般団体》

宿泊⇒延べ20人以上

交付額⇒30万円上限（宿泊費の2分の1以内）

(4) 合宿実績

平成28年度

- ① ひらまつ病院陸上部 15人
- ② 鳥栖工業高校レスリング部 23人
- ③ 明治大学 43人
- ④ 大東文化大学 29人
- ⑤ 順天堂大学 30人
- ⑥ 東洋大学 15人



《所感》

平成23年より「スポーツ資源を生かしたまちづくり」として、公認陸上競技場を主に活用したスポーツ合宿を積極的に誘致し、特に関東大学陸連との繋がりのある有名大学が合宿先として名を連ねている。合宿だけでなく、公開練習や児童・生徒への指導などの交流を図ることにより、競技への興味や憧れを育むなど地域の活性化と合わせ子供たちへの多様な教育効果も見込むなど、幅の広い取組が行われている。限られた宿泊先や合宿時期が集中するなどの課題があるが、教育委員会を中心として、地元企業や市民の理解を得て、官民挙げての堅実な事業運営がなされている。



[鹿島市議会議場]

【第2日】

佐賀県神埼市

人口：約3万2千人、面積：125.13Km²

《視察項目》

放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的運営について

《視察内容》

(1) 放課後児童クラブ

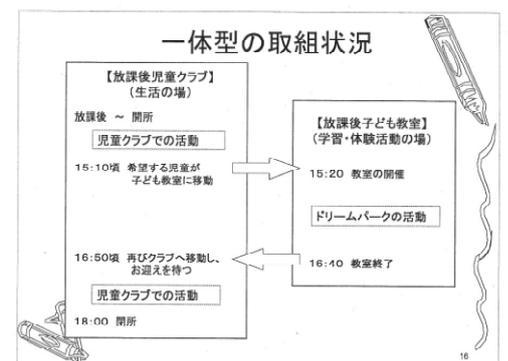
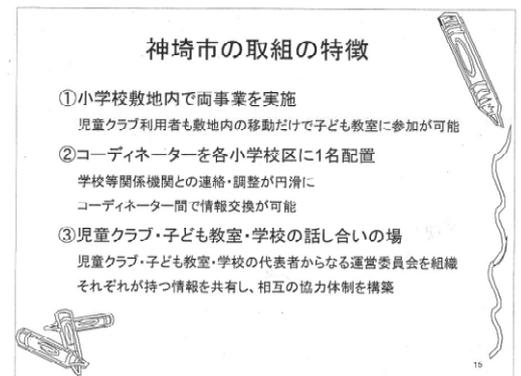
- ① 対象・・・小学校1年生から6年生まで
(平成28年度から希望者全員を受け入れ)
- ② 開所時間・・・平日→放課後～18:00
土曜・長期休業中→7:00～18:00
- ③ 市内小学校に8クラブを開所
- ④ 平成29年度利用者数・・・455人
(利用率24.9%)

(2) 放課後子ども教室(ドリームパーク)

- ① 対象・・・小学校1年生～6年生までの希望者
- ② 開催日及び回数・・・月2回(基本隔週水曜日)
年間18回(前期9回・後期9回)
通常 →15:20～16:40
夏季休業中→15:00～16:20
- ③ 開催場所・・・市内各小学校の教室や体育館、運動場など
- ④ 平成29年度利用者数・・・407人
(利用率22.3%)

(3) 一体型取組の特徴

- ① 小学校敷地内で両事業を実施
 - ・児童クラブ利用者も敷地内の移動だけで子ども教室に参加可能
- ② コーディネーターを各小学校に1名配置
 - ・学校等関係機関との連絡・調整が可能
 - ・コーディネーター間で情報交換が可能
- ③ 児童クラブ・子ども教室・学校の話し合いの場
 - ・それぞれの代表者からなる運営委員会を年2回開催
 - ・それぞれが持つ情報の共有化、相互協力体制を構築



《所 感》

神崎市では、放課後児童クラブ（学童保育）を福祉部局ではなく、教育委員会が所管していることから、放課後児童クラブは原則小学校敷地内に専用施設を設けて実施しており、放課後子ども教室（ドリームパーク）も、同じ小学校の施設（理科室や家庭科室、体育館など）を利用するなど、すべての就学児童を対象として共通の活動場所において多様の共通プログラムを実施している。ドリームパークは原則隔週水曜日の月2回開催し、前期・後期各9回実施しており、放課後児童クラブ利用児童も学校敷地内の移動で利用が可能であるなど、教育委員会がそれぞれの事業を所管する利点が活かされている。

【第3日】

長崎県佐世保市

人口：約25万7千人、面積：426.06Km²

《視察項目》

- (1) 徳育の推進について
- (2) 保幼小連携接続カリキュラムについて

《視察内容》

- (1) 徳育の推進について

【具体的な取組】

①一徳運動の展開

- ・それぞれの家庭、学校、地域、団体、職場などにおいて、「いつでも・だれでも・どこでも」できる目標を一つ設定して、実践していこうとする運動

②家庭、学校、地域、職場などでできる取組例

- ・親子読書など家族みんなで過ごす時間の設定（家庭）
- ・年1回以上、家族みんなで学校行事や地域行事への参加（家庭）
- ・学校（園）だよりの一部を活用した道德通信の発行（学校）
- ・一般市民への道德授業の公開（学校）
- ・積極的なあいさつ、声掛けの実施（地域）
- ・学校ボランティア活動への参加（地域）



〔啓発用ステッカー〕



- ・職場などの特色をいかした「一社一徳」の目標設定（職場）
- ・従業員への地域行事や学校行事等への参加推奨（職場）等

《所 感》

近年の社会経済や生活環境の変化により、生活が「個」を重視したものとなったことから、人間関係の希薄化やモラル・マナーの欠如などが生まれ、結果的に地域コミュニティーの衰退や想像もつかない事件が発生している。このような

← [徳育の広報誌]

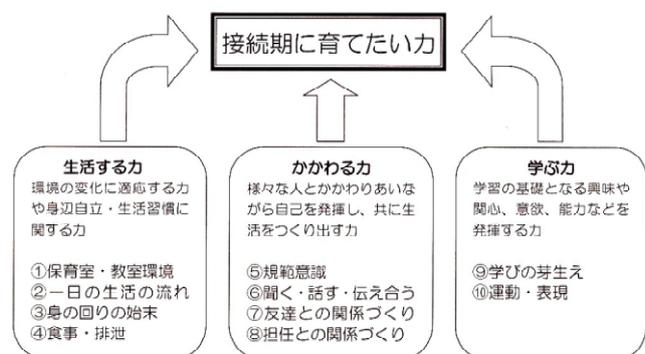
現状を憂慮し、「徳育」を「規範意識、生命の尊重、他者への思いやりを培うとともに法やルールを遵守し、適切に行動できる人間を育成すること」とし、平成19年度に策定した「第6次佐世保市総合計画」において「心豊かな人を育むまち」の“10年後に望まれる姿”として「徳育」を位置付け、平成21年度に設置した徳育推進会議の提言を踏まえ、平成24年2月「徳育推進のための行動計画」を策定、市民運動として官民一体となった徳育推進のまちづくりに取り組んでいる。

(2) 「保幼小連携接続カリキュラム」について

幼児期の教育・保育と小学校教育の相互理解を深め、相違を認識しながら、連続性・一貫性をもった構成となっている。「接続期に育てたい力」《生活する力・かかわる力・学ぶ力》をバランスよく育てることを目指している。

【経緯】

- 平成20年3月に「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「小学校学習指導要領」が改定され、就学前保育・教育と小学校教育の連続性と学びの基礎力の育成が重要視される。
- 平成22年度に小学校区ごとに「保幼小連携協議会」を設置、校区ごとの温度差を解消しシステム化を図る。
- 平成23・24年度に保・幼・小各代表委員による「保幼小連携接続カリキュラム検討委員会」を立ち上げ、平成24年12月に「保幼小連携接続カリキュラム」として発行するに至った。



《所感》

小学校に入学した児童に見られる、いわゆる「小1プロブレム」の一因として、保育所・幼稚園と小学校との接続が円滑に行われていないとの指摘があることから、これらの解消を目指し、平成17年度より「保幼小連携講座」開設、その後も公開保育・公開授業などにより、就学前保育・教育と小学校教育の連続性を重視する取組を行ってきた。平成24年12月には、さらなる取組として「保幼小連携カリキュラム」を策定、市全体として保幼小連携のシステム化を進め実践と検証を行っている。



平成 29 年 7 月 19 日

小野市議会議長 山中修己 様

総務文教常任委員会

小林 千津子 ⑩

行政視察報告書

先般、実施しました 総務文教常任委員会の視察結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 平成 29 年 7 月 5 日（水）～平成 29 年 7 月 7 日（金）

2 視察メンバー

川名 善三	小林千津子	富田 和也	平田 真実
高坂 純子	河島 信行	前田 光教	山中 修己

3 視察先及び調査内容

- (1) 佐賀県鹿島市 （人口： 約 3 万人 面積：112.12K m²）
 - ① スポーツ合宿誘致の取組について
- (2) 佐賀県神埼市 （人口： 約 3 万 2 千人、面積：125.13K m²）
 - ① 放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的運営について
- (3) 長崎県佐世保市 （人口； 約 25 万 7 千人、面積；426.06K m²）
 - ① 徳育の推進について
 - ② 保幼小連携接続カリキュラムについて

4 調査結果

【第1日】 7月5日 (水) 13時30分 ～ 15時30分
佐賀県鹿島市 (人口：約 3万人 面積：112.12K m²)

《視察項目》

スポーツ合宿誘致の取組について

《視察内容》

鹿島市スポーツ合宿誘致事業について

鹿島市教育委員会 生涯学習課 永石課長補佐から説明を受ける

誘致事業の経過

平成23年2月に第60回記念公認鹿島祐徳ロードレース大会に、関東学生陸上競技連盟所属大学から初参加（明治大学、東洋大学、大東文化大学、日本大学）されたのをきっかけに、同連盟関係者が市内施設を視察、環境の良さに注目、スポーツ合宿の検討を示唆され、市として平成23年度より合宿誘致事業を実施。

運営方法

鹿島市スポーツ合宿誘致実行委員会

実行委員長 市体育協会会長 (委員数 10名)

事業推進の体制

協力 市内飲食店 食事の提供

市内宿泊施設 宿泊の調整

市内企業 協賛の協力 ポスター、チラシの掲示

PR・周知方法

誘致活動によるPR 市報での公報

歓迎看板、横断幕の設置、合宿団体の校旗の設置、フェイスブックの活用

優遇措置

施設使用料の減免、

市内移動時のレンタカー提供、

空港までの無料送迎

助成制度

	招へい団体、一般団体	
共通	市内のスポーツ施設で実施 練習を公開すること	連続した日程で実施
	招へい団体	一般団体
宿泊人数	述べ 100人以上	述べ 20人以上

交付額	100万円を限度 宿泊費と交通費の総額の 2分の1	30万円を限度 宿泊費の2分の1
その他	交流事業などを実施 市内学校への訪問 市民との交流 スポーツ教室	

市内への波及効果や影響

競技への興味、関心、
憧れや目標 異世代交流 地域の活性化

28年度合宿実績

陸上 ひらまつ病院陸上部、日本体育大学、明治大学、順天堂大学
東洋大学、大東文化大学
参加述べ人数 192名
交流事業に参加した小中高生 705名

今後の課題

合宿日程の調整
宿泊場所の手配 宿泊施設が少ない
他競技の誘致
事業の周知、情報発信

《所感》

合宿される期間は長くても1週間程度のようなのですが、宿泊施設が少なくビジネスホテルや研修施設、又温泉宿と分散して泊まられているようでした。来られた大学生は、食事がおいしい、市民が温かく歓迎してくれると好評。

地域への消費効果は宿泊費や食事代等で、1団体100万程度とお聞きしました。23年度よりこの事業に毎年参加されている大学もありました。

研修後、高台にある蟻尾山公園に案内して頂きました。本格的な陸上競技や野球、フットサル、遊具や花見広場、又12ホール常設のグラウンドゴルフ場等大変行き届いた芝生の綺麗な総合公園でした。

小野市においても今後建設予定の、浄谷黒川丘陵地多目的運動広場に模範とすることが多々あろうと考えます。下東条のコミュニティセンターに合宿され、菅田の館いりどりで食事をして頂く学校が増えてまいりました。高校生では県立尼崎女子バスケットボール部30名の選手が来られ、昨年は準優勝、今年は県大会で優勝しましたと報告を頂きました。市内の子供達もサッカーやバレーに来て合宿します。遠くからでは富士見市や大阪市内からきて食事をしてくれます。子供達に喜んでもらえるようにおいしい食事をお腹いっぱい食べてもらっています。規模は小さいですが下東条のコミセンと共にスポーツ合宿をしています。

【第2日】 7月6日（木） 10時00分～12時00分

佐賀県神埼市（人口：約 3万2千人、面積：125.13K㎡）

《視察項目》

放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的運営について

《視察内容》

神埼市の放課後対策

1. 放課後こども教室（文部科学省）

全ての子供を対象に、安全・安心な子供の活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て学習やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の機会を提供する。

- ・対象 小学1年生から6年生までの希望者 定員1教室35名
- ・開催場所及び回数 月2回開催市内各小学校の教室、運動場
- ・時間 15：20～16：40
- ・参加費 材料代として1,200円 保険代800円
- ・放課後児童クラブ利用者は終了後クラブへ

2. 放課後児童クラブ（厚生労働省）

共働き家庭など留守家庭で小学校に就学している児童に対して、放課後に適切な遊びや生活の場を与えて、その健全な育成を図る。

- ・対象 小学1年生から6年生まで
平成19年度から上限を3年生から6年生に引き上げ
平成28年度から希望者全員を受け入れ
- ・開所時間 平日 放課後～18：00
土曜・長期休業中 7：00～18：00
平成20年度から開所時間を8時から7時に早める
平成21年度から土曜日も開所
- ・負担金額 平日 月額2,000円 保険料800円

神埼市の取組の特徴

1. 小学校敷地内で両事業を実施

児童クラブ利用者も敷地内の移動だけで子供教室に参加が可能

2. コーディネーターを各小学校区に1名配置

3. 児童クラブ・子供教室・学校の話し合いの場

代表者からなる運営委員会を組織

一体型の取組状況

放課後児童クラブ

放課後開所 児童クラブでの活動

15：10分頃 希望する児童がこども教室に移動

|

15：20分開催 放課後子ども教室

学習体験活動の場 16：40分教室終了

|

16：50分頃 再び児童クラブへ移動しお迎えを待つ

18：00閉所

今後の課題

放課後児童クラブ

希望者全員を受け入れるための対応（夏休みは希望者が多い）

開所時間の延長（18時以降の育成支援）

支援員の確保（18時以降）

放課後子ども教室

人材確保（地域ボランティアの発掘）

《所感》

放課後子ども教室、放課後児童クラブ、学校の代表者が情報を共有され、子どもたちを見守る。学校の敷地内で児童が行き来できる条件が整っています。3者がそれぞれの立場を守りながらコラボされて居られるのでしょ

う。400名余りの児童を31名の常勤ボランティアの方々が見守られている。長期休みには15名増員、60才以上の方を募集されているとのことでした。人材が不足していると話されていました。

【第3日】 7月7日（金） 10時00分～12時00分

長崎県佐世保市（人口：約25万7千人、面積：426.06K㎡）

《視察項目》

①徳育の推進について

②保幼小連携接続カリキュラムについて

「佐世保市幼児教育センターに於いて」

《視察内容》

佐世保市における徳育推進について

徳育とは「道徳心のある、情操豊かな人間性を養うための教育」

「社会や共同体において秩序を保つために、自然なところある行動を促す教育」

具体的には

- ・ 自他の生命を尊重する心
- ・ 決まりを守る素直な心
- ・ 弱い人をいたわる心
- ・ 美しいものを愛する心
- ・ 困難なことにもたちむかいやりぬく心
- ・ 夢や希望を抱いて頑張っていく心
- ・ 昔からある日本らしさ、日本の伝統を大切にする心

心の様相を乳幼児期から躰けられ、教育され生まれ育つ人間を育成することとしている

保幼小連携の取組

保育所・幼稚園等と小学校を滑らかにつなぐために

幼児期の教育。保育と小学校教育の相互理解を深め、相違を認識しながら連続性・一貫性を持った構成。

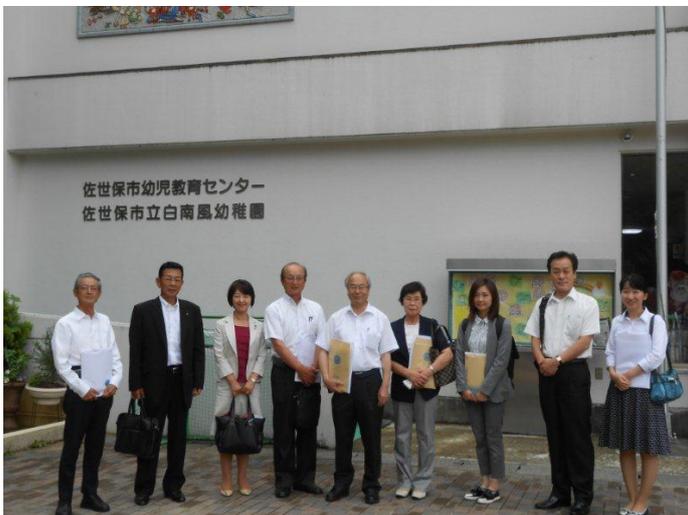
カリキュラムの視点として「接続機に育てたい力」（生活する力、かかわる力、学ぶ力）を育てることを目指して取組む

保幼小連携4ステップ

1. 無理なくできることから（互いの行事への参加・互いの研修会への参加）
2. キーパーソンを位置づけて（各校・園で連携の窓口を一本化）
3. 互いの計画をつなげよう（互いの年間交流計画の位置づけ）
4. 接続カリキュラムの作成・実践・検証

《所 感》

平成21年1月に徳育検討懇話会を設立、24年4月市政110周年記念式典で全ての佐世保市民が「感謝と思いやりの心を持ち、自分を律し、勇気をもって社会や他人のために何かできる人」となることを目指して「徳育推進のまちづくり宣言」をされた。推進の柱に一徳運動を展開、官民一体となって繰り広げていますと説明して頂きました。私たちが忘れかけていた道德教育を思い出しました。



佐世保市幼児教育センターにて

平成29年7月14日

小野市議会議長 山中 修己様

総務文教常任委員会

富田和也 ⑩

行政視察報告書

先般、実施しました総務文教常任委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 平成29年7月5日（水）～平成29年7月7日（金）

2 視察メンバー

◎川名善三 ○小林千津子 平田真実 高坂純子 河島信行 前田光教
山中修己 富田和也

3 視察先及び調査内容

- (1) 佐賀県鹿島市（人口：約3万人、面積：112.12 Km²）
スポーツ合宿誘致の取組について

- (2) 佐賀県神埼市（人口：約3万2千人、面積：125.13 Km²）
放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的運営について

- (3) 長崎県佐世保市（人口：約25万7千人、面積：426.06 Km²）
 - ①徳育の推進について
 - ②保幼小連携接続カリキュラムについて

4 調査結果

【第1日】

佐賀県鹿島市

人口：約3万人、面積：112.12Km²



《視察項目》

「スポーツ合宿誘致の取組」について

鹿島市教育委員会 生涯学習課（社会教育・文化係・スポーツ係）橋村課長・永石課長補佐

《鹿島市の沿革》

鹿島市（かしまし）は、佐賀県の南部にある市。佐賀県の南部、佐賀市の南西約60kmの場所に位置する。市域東部は有明海に面し、市域南西部は長崎県と県境を成している。南に多良山系があり、南部はその麓でいくつかの川が谷を刻む。北部は海岸沿いの平野で鹿島市街がある。各地域に伝わる「浮立」とよばれる伝統芸能が数多く存在し、おおよそ60の地域で80もの団体が活動されています。また、産業面では、第一次産業が主体であるが、酒造りなどの加工業も盛んな地域です。この他、鹿島ガタリンピック、祐徳稲荷神社や肥前浜宿の歴史的な街並みなどの観光資源にも恵まれており、これらの地域資源を活用しながら市民がふるさとに誇りを持ち、「みんなが住みやすく、暮らしやすいまちづくり」を目指している。

《視察内容》

「鹿島市スポーツ合宿誘致事業」について、実施の背景・事業の概要・事業効果・課題等、その他事業の特筆事項について調査研究を行いました。

《事業実施の背景》

人口約3万人の佐賀県鹿島市では、平成23年2月27日に開催された第60回記念公認鹿島祐徳ロードレース大会に、初めて関東学生陸上競技連盟所属大学である「明治大学」「東洋大学」「大東文化大学」「日本大学」が参加され、その大会時に、連盟関係者が、クロスカントリーコースや陸上競技場がある蟻尾山公園を視察した際、「クロスカントリーコースと陸上競技場が隣接していること。さまざまなトレーニングに対応できる環境が整っていること」の環境の良さを挙げ、合宿の検討を示唆したそうです。

《事業の目的》

これをきっかけに、地域振興と青少年育成を図る目的から、鹿島市として平成23年度より補助金を出し、合宿誘致の取組が始まった。

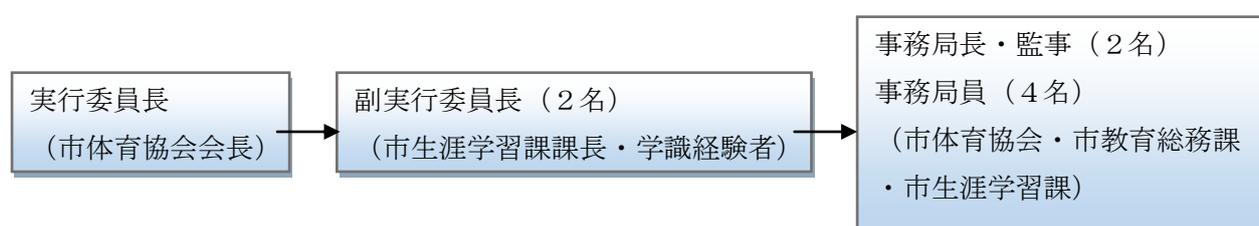


《主な事業内容》

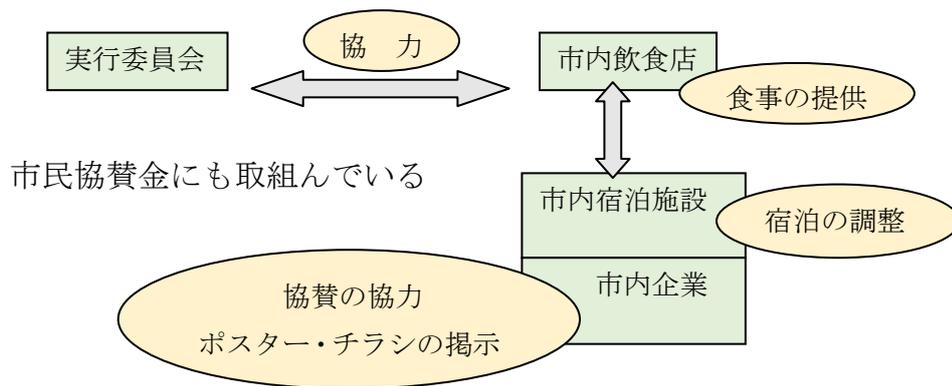
① 【運営方法について】

実行委員会を組織した事業運営

【鹿島市スポーツ合宿誘致実行委員会の組織図】 委員数10名



② 【事業推進の体制について】



③ 【PR・周知方法について】

- ・誘致活動によるPR
- ・市報での広報
- ・チラシ、ポスターの掲示 → 市内協賛企業
- ・歓迎看板、横断幕の設置 → 陸上競技場、市役所、駅前、練習場
- ・合宿団体の幟旗の設置 → 市内各所（宿泊所、食事場所など）
- ・フェイスブックの活用 → 鹿島市スポーツ合宿誘致実行委員会検索

④ 【優遇措置について】

- ・施設使用料の減免
- ・市内移動時のレンタカー提供
- ・空港までの無料送迎

⑤ 【助成制度について】

「鹿島市スポーツ合宿誘致事業交付金」

	招聘団体	一般団体
共通	<ul style="list-style-type: none"> ・市内スポーツ施設で実施 ・連続した日程で実施 ・練習を公開すること 	
宿泊	・延べ宿泊人数100人以上	・延べ宿泊人数20人以上
交付金	<ul style="list-style-type: none"> ・100万円を限度 ・宿泊費と交通費の総額の2分の1 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊費は30万円を限度 ・宿泊費の2分の1
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・交流事業などを実施 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 市内学校への訪問 市民との交流 スポーツ教室 </div>	

「年度別の交付金額」当初予算は700万円

23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
200万円	450万円	560万円	410万円	505万円

※ 宿泊費、交通費については合宿誘致制度により参加団体、人数等に合わせた補助額で交付している。

「合宿誘致の実績」

年 度	種 目	団体数	延べ人数 (人)	誘致月	交流事業
23年	陸 上	3	73	2月	陸上教室の実施 (参加者50人) 合同練習 (参加者60人)
24年	陸 上	7	138	2~3月	上記同 (延べ参加者280人)
25年	陸上・ レスリング	10	192	5~3月	同、交流会等 (延べ参加者565人)
26年	陸 上	5	126	8~3月	同、交流会等 (延べ参加者225人)
27年	陸 上	6	132	8~3月	同、交流会等 (延べ参加者320人)
28年	陸上・ レスリング	8	192	7~3月	同、交流会等 (延べ参加者705人)
合 計	2種目	39団体	853人		2,205人

蟻尾山公園 (ぎびざんこうえん) の沿革

蟻尾山公園は、鹿島市中心市街地の南西部に位置し、昭和63年1月に策定された基本計画をもとに平成3年度からスポーツ・レクリエーションの核として中核都市鹿島にふさわしい総合園を目指して整備されました。敷地面積は当面22haとして平成7年までに、陸上競技場および花見広場を整備し、平成18年度までに野球場区域および東側広場区域を整備されました。陸上競技場は平成8年10月佐賀県民体育大会主会場として、市民球場は平成19年7月全国高校総体男子ソフトボール主会場として使用され、公園内には、本格的な陸上競技や野球、手軽にできるフットサル等遊具や花見広場、クロスカントリーコース、グラウンドゴルフ場までいろんな施設があります。



※ 公園の維持管理委託料として年間5,200万円。修繕費等は市が別に出している。

⑥ 【市内への波及効果及び影響について】

- ・ 競技への興味、関心・憧れや目標・異世代交流
- ・ 市内企業、大学OB会からの協賛や差し入れ
- ・ 鹿島市のPR（市報、チラシ、ポスター、フェイスブックなど）
- ・ 交流人口の増加・地域の活性化

⑦ 【環境整備について】

- ・ 合宿団体へのアンケートによる施設の不備、不満等を把握し改善に努めている。
クロスカントリーコースの案内看板や距離表示板の設置

- ・ 良かった面→大学生のベスト3は
○施設環境が良い ○市民の温かさ ○米等食事が美味しい

※ 食事については、スポーツ選手ならではの特殊メニュー（カロリー等）を求められるので、市内2店舗のお店をお願いをして、料理を提供していただいているので助かっているとのことでした。

⑧ 【今後の課題について】

- ※ 合宿日程の調整・宿泊場所の手配・他競技の誘致・事業の周知、情報発信等
- ※ 市内の宿泊施設がビジネスホテル1カ所と、研修施設1カ所の計2カ所と少ないため期間が集中しないようなスケジュール調整に苦慮されている。

《所 感》

良好なスポーツ環境を備えた施設群を有する鹿島市では、平成23年度からスポーツ合宿の誘致事業を始め、その取組に当たっては実行委員会を組織し、合宿団体を総合的にサポートする体制を構築されていきました。また、合宿団体への交付金事業の実施に合わせて、市民との交流事業（陸上教室を幼稚園から小中高校で開催）を義務づけており、市民のスポーツに触れる機会を通じ、競技への興味や関心を高め、加えて、一流の選手の走りを見ることが出来るので青少年育成に寄与出来るというものです。近年、陸上を通じて、大学へ進学するケースも出てきているとのことでしたので、多くの波及効果を生んでいる。一方、経済効果については1団体の規模により多少異なるものの1団体、約100万円程度の市内への消費効果（食事等、他）があると分析されていました。小野市においても、平成31年完成予定である、（仮称）浄谷黒川多目的運動広場、既存の施設等を有効活用して新しい事業に取り組むことは大切ではないかと思いました。

【第2日】

佐賀県神埼市

人口：約3万2千人、面積：125.13Km²



《視察項目》

「放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的運営」について

神埼市教育委員会 社会教育課社会教育係 森永文恵係長・濱崎宇美穂主事

《神埼市の沿革》

神埼市（かんざきし）は、佐賀県東部に位置する市。佐賀市中心部から北東約10kmの場所に位置し、南北に細長い市域をもつ。北部は脊振山地の中にある。北に脊振山があり、南に行くほど標高は低く、南部は筑後川北岸の佐賀平野にあり、中央部を城原川が貫通している。また南東部は筑後川を挟んで福岡県久留米市に接し、総面積の内、山林・原野が約66%を占めており、田畑が28%、宅地は全体の5%強であり、緑豊かな環境が広がっている。

《視察内容》

本事業実施の背景・事業の概要・事業効果・課題等、その他事業の特筆事項について調査研究を行いました。

《事業実施の背景》

すべての子どもを対象として、安全・安心な子どもの居場所を設け、地域の方々の参画を得て、学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を推進

《主な事業内容》

神埼市の放課後対策

① 放課後子ども教室（文部科学省）（ドリームパーク）

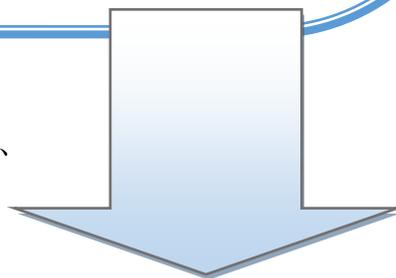
全ての子どもを対象として、安全・安心な子どもの活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、学習やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の機会を提供。

- ・対 象：小学1年生から6年生までの希望者
- ・開催日及び回数：月2回開催（基本は隔週水曜日）
前期9回・後期9回の合計18回開催
- ・時 間：15：20～16：40
（但し、夏季休業中は15：00～16：20）
※原則、保護者のお迎えが必要
- ・開催場所：市内各小学校の教室や体育館、運動場等で実施
- ・参加費：材料代として前期・後期それぞれ、1,200円を徴収
保険料として、800円が必要
（*放課後児童クラブの保険と共通）
- ・定 員：1教室につき、定員35名
申込多数の場合は事務局で抽選

～市内7小学校で合計15教室（ドリームパーク）を開催～

※ 平成29年度前期実績：全児童数1,825人に対し、参加者407人、率にして平均22.3%である。

※ 放課後児童クラブ利用者はドリームパーク終了後、放課後児童クラブへ移動



② 放課後児童クラブ（厚生労働省）

共働き家庭など留守家庭の小学校に就学している児童に対して、放課後に適切な遊びや生活の場を与えて、その健全な育成を図る。

（児童福祉法第6条3第2項に規定）

- ・ 対 象：小学1年生から6年生まで
 - ※平成19年度から上限を3年生から6年生に引き上げ
 - ※平成28年度から希望者全員を受入れ
- ・ 開所時間：平日：放課後～18：00
土曜・長期休業中：7：00～18：00
 - ※平成20年度から開所時間を8時から7時に早める
 - ※平成21年度から土曜日も開所
但し、日曜日・祝日・お盆（8/12～8/16）・年末年始（12/29～1/3）を除く

	負担金額	別途クラブ費
課業日（平日）	月額2,000円	1,000円
土曜日*課業日入会者に限る	月額1,000円	徴収なし
春休み（4/1～4/5） *新1年生は入学式の前日まで	1,000円	500円
夏休み（7/21～8/24）	4,000円	2,000円
冬休み（12/25～1/7）	1,000円	500円
学年末（3/25～3/31）	1,000円	500円

※保険料として800円が必要（*放課後子ども教室の保険と共通）

～市内7小学校に合計8クラブを開所～

平成29年度前期実績：全児童数1,825人に対し、参加者数455人、
率にして平均24.9%である。

一体型の放課後児童クラブ・放課後子ども教室とは

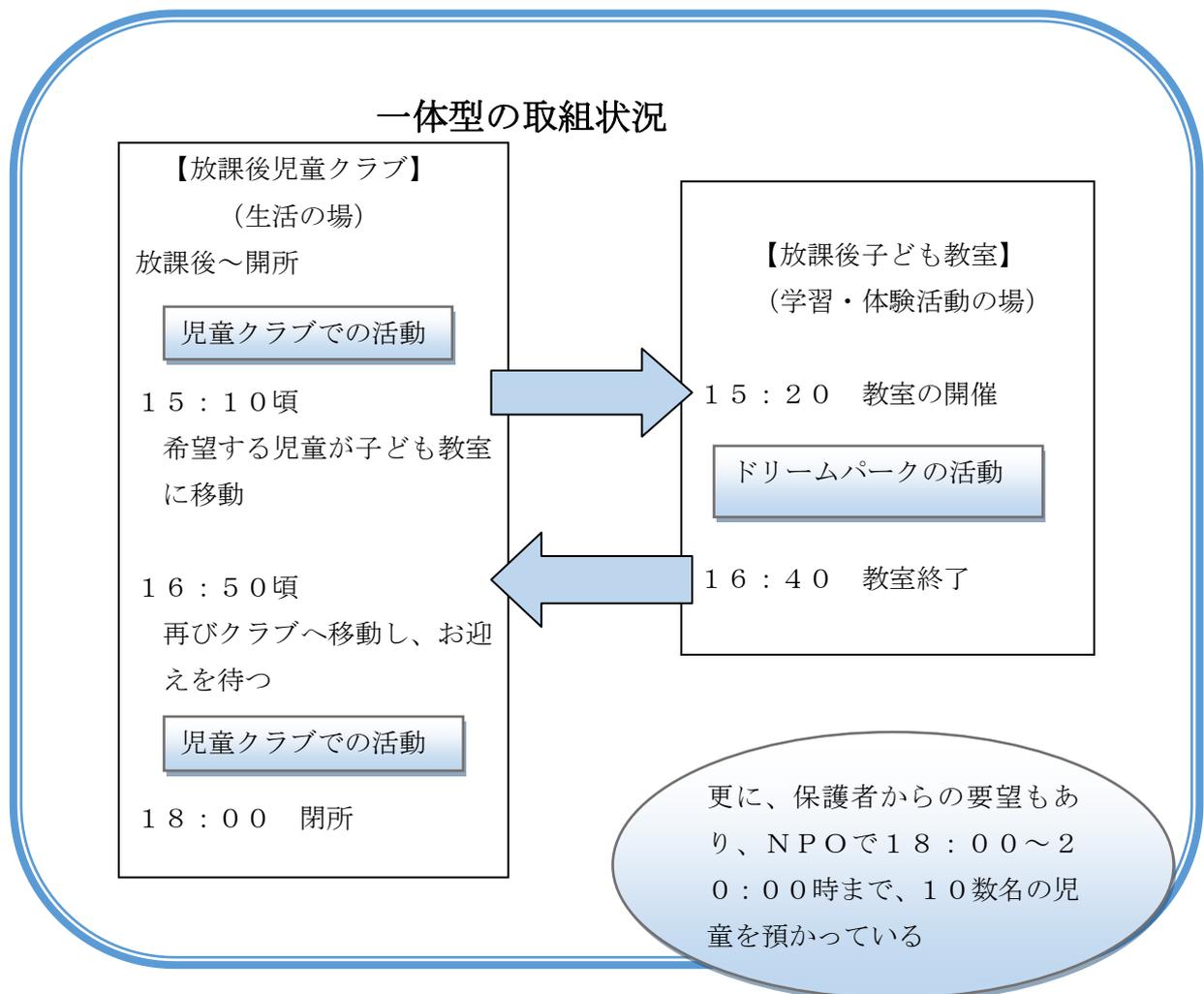
- 共働き家庭等も含めた全ての就学児童を対象に、共通の活動場所において多様な共

通プログラムを実施

- 活動場所は学校の余裕教室や特別教室（家庭料理や理科室、ランチルーム等）、学校敷地内の専用施設等の安心・安全な活動場所を活用

《取組の特徴》

- ① 小学校敷地内で両事業を実施
児童クラブ利用者も敷地内の移動だけで子ども教室に参加が可能
- ② コーディネーターを各小学校区に1名配置
学校等関係機関との連携・調整が円滑に
コーディネーター間で情報交換が可能
- ③ 児童クラブ・子ども教室・学校の話し合いの場
児童クラブ・子ども教室・学校の代表者からなる運営委員会を組織
それぞれが持つ情報を共有し、相互の協力体制を構築



※ドリームパークメニューはコーディネーターがセットしている（サポート統括）



《支援員の構成について》

常勤：31名（内60歳以上13名）

代替者：21名（内60歳以上17名）

アルバイト：5名（60歳以上）

※夏休み期間は、アルバイトを別に15名募集している。尚、夏休み期間は障がいがある児童を受入れるので保育士も募集している。

時給は、一般830円、保育士870円、各クラス責任者890円とのことでした。

《支援員の募集について》

年1回20歳から70歳までの方を募集

募集人数が満たない場合は、高齢者いきいき大学（教育の場として月1回講師を呼び講演会をする）の方々をお願いすることもある。

※今後は各地域の公民館での本事業の開設についての考えは？の問いに、考えているが、親が子どもを一人で帰らせるのが心配だとの声もあり難しいところであるとのことでした。

《今後の課題》

- 放課後児童クラブへの希望者全員を受け入れるための対応等、特に夏休み期間の申し込みが多い。
- 開所時間の延長等、18時以降の育成支援の対策と支援員の確保。
- 放課後子ども教室の人材確保等、地域ボランティアの発掘。

《所 感》

放課後子どもプランは、文部科学省の「放課後子ども教室推進事業」と、厚生労働省の「放課後児童クラブ」の連携を図りながら、放課後の子供の安全で健やかな活動場所を確保し、総合的な放課後対策として実施するものであります。そのような中、神崎市では、その実施主体はどちらも教育委員会社会教育課においてそれぞれ担当者が事業を実施されておられたのには正直驚きました。同じ社会教育課なので双方の協力体制を構築しつつ、且つ、話し合いながら実施できていることは大変素晴らしいことであると思いました。一方、神崎市の取組に見え隠れするものは、子どもの居場所づくりが地域の高齢者の居場所づくりにもなっているということでした。講師を通じて生きがいの場ともなっていることです。「子どもに関わって、とにかく楽しいとの声がしきりである」とのことでした。加えて、ドリームパーク（放課後子ども教室）はさまざまな講師がおり、放課後児童クラブの講師としても活動するようになっています。

いずれにいたしましても、子育て中の家族を社会全体で支える観点から、小野市においても、今後の放課後子どもプランは、子育て支援の有効な事業でありますので、放課後児童対策と共に、一貫体制を構築できるよう取組んでまいりたいと思った次第であります。

【第3日】

長崎県佐世保市

人口：約25万7千人、面積：426.06 Km²



《視察項目》

第1部：徳育の推進について

第2部：保幼小連携接続カリキュラムについて

《佐世保市の沿革》

佐世保市（させぼし）は、長崎県北部地方にある市。長崎県北部の中心都市で、長崎県では長崎市について2番目、九州では9番目に多い人口を擁する。県庁所在地ではない「非県都」としては比較的大きな規模を持つ都市であり、国から中核市及び保健所政令市の指定を受けている。かつて旧海軍四軍港(横須賀・呉・佐世保・舞鶴)の一つとして鎮守府が置かれ、現代でも自衛隊や在日米軍の基地として伝統を受け継ぐ、造船および国防の町として知られる。また、西海国立公園に指定されている九十九島や日本最大級のテーマパークであるハウステンボスに代表される観光都市でもある。長崎市とは離れているため、経済圏は異なる。

《視察内容》

本事業実施の背景・事業の概要・事業効果・課題等、その他事業の特筆事項について調査研究を行いました。

第1部：佐世保市における徳育の推進について

(研修場所：佐世保市幼児教育センター内)

教育委員会社会教育課 中村明宏係長補佐 公文拓馬主事

《事業実施の背景》

徳育とは、「道徳心のある、情操豊かな人間性を養うための教育」であり、生命を大切にし、他人への思いやりや感謝の気持ちを持つと共に、社会的なマナーやルールを守って、人として適切に行動できる人を育てること。つまり、人が人として生きていくための心の学びであり、豊かな生涯を生き抜くための心の教育でもあり、社会や共同体において、秩序を保つために自然なところある行動を促す教育である。

- ・自他の生命を尊重する心
- ・きまりを守る素直な心
- ・弱い人をいたわる心
- ・美しいものを愛する心
- ・困難なことにも立ち向かいやりぬく心
- ・夢や希望を抱いて頑張っていく心
- ・昔からある日本らしさ、日本の伝統を大切にする心

背景：人間関係の希薄化・モラル、マナーの欠如

背景を踏まえて：心豊かな人づくりが必要→「徳のある人づくり」

徳育推進のまちづくり宣言（平成24年4月1日）

《主な事業内容》

佐世保徳育推進会議

※佐世保徳育推進会議は、「徳育推進のための行動計画」に基づき設立された団体であり、平成24年6月13日の設立総会を経て、正式に発足。

※市内の社会教育、学校、地域、企業の関係団体に所属されている方々で構成されており、徳育推進のために日々活動。

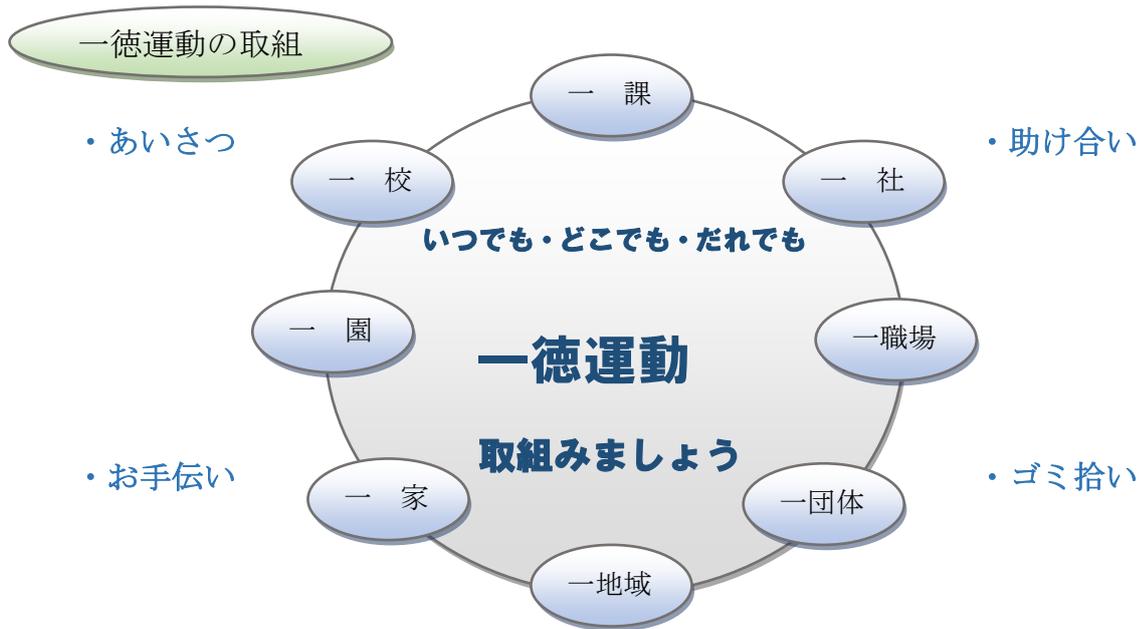
※これまでの活動は、徳育の広報啓発として、徳育推進フォーラムの開催や徳育啓発新聞「徳育」の発行、徳育推進ロゴマークの選考・作成や、徳育推進カレンダーの作成などの活動を通して、官民一体となった取組を行っている。



徳育推進
ロゴマーク



109,000部
作成



一徳運動とは

各家庭・学校（園）・会社・職場・団体・地域などで徳育に関する目標を一つ設定して、実践していこうという運動

例 笑顔であいさつ、元気に返事、一日一善、感謝の心で「ありがとう」・ごみ拾い等

第2部：保幼小連携接続カリキュラムについて
(研修場所：佐世保市幼児教育センター内)



《幼児教育センター設立の目的》

乳幼児の健全な育成を目指し、幼児教育の充実推進及び子育て支援等に資することを目的に平成15年4月に開設された。

《事業実施の背景》

幼児教育センターは、平成17年度より、保幼小連携講座を開設し、保育所・幼稚園・小学校の教育や生活を互いに学びあい、保幼小連の理解・推進を行ってきた。平成22年度には、「保幼小連携協議会」を立ち上げ、推進会議・施設長会・担当者会を開催し、保幼小連携の全市的なシステム化を図り、その後、保育所・幼稚園と小学校の先生方のご協力もあり、平成24年に県内で初めて「保幼小連携接続カリキュラム」を作成された。

※（保育所・認定こども園・幼稚園等から小学校へ、滑らかな就学に向けた取組み）

※ 佐世保市の幼稚園・保育所・認定子ども園、他の件数

保育所（小規模園が多い）：62園（内、市立保育所3園は子育て支援センターとしての役割も担っている）

幼稚園：9園（内、市立幼稚園は2園）

認定子ども園：32園

地域型保育事業所：3園

認可外保育施設：4園

《取組の経緯》

佐世保市では、平成17年「佐世保市幼児教育センター」事業として、公開保育・公開授業などの「保幼小連携講座」を開設し、保幼小連携への理解の推進に取り組んでいたが、保育士や幼稚園教諭と小学校教師の間での意識の相違や互いの保育や教育内容についての理解不足などで思うように進まないという課題が浮き彫りとなり、小1プロブレム解消のためには更なる連携の取組が必要と考えられた。

～保幼小連携の進め方と段階表～

平成21年度＜保幼小連携について＞アンケート実施

保育所・幼稚園の立場から

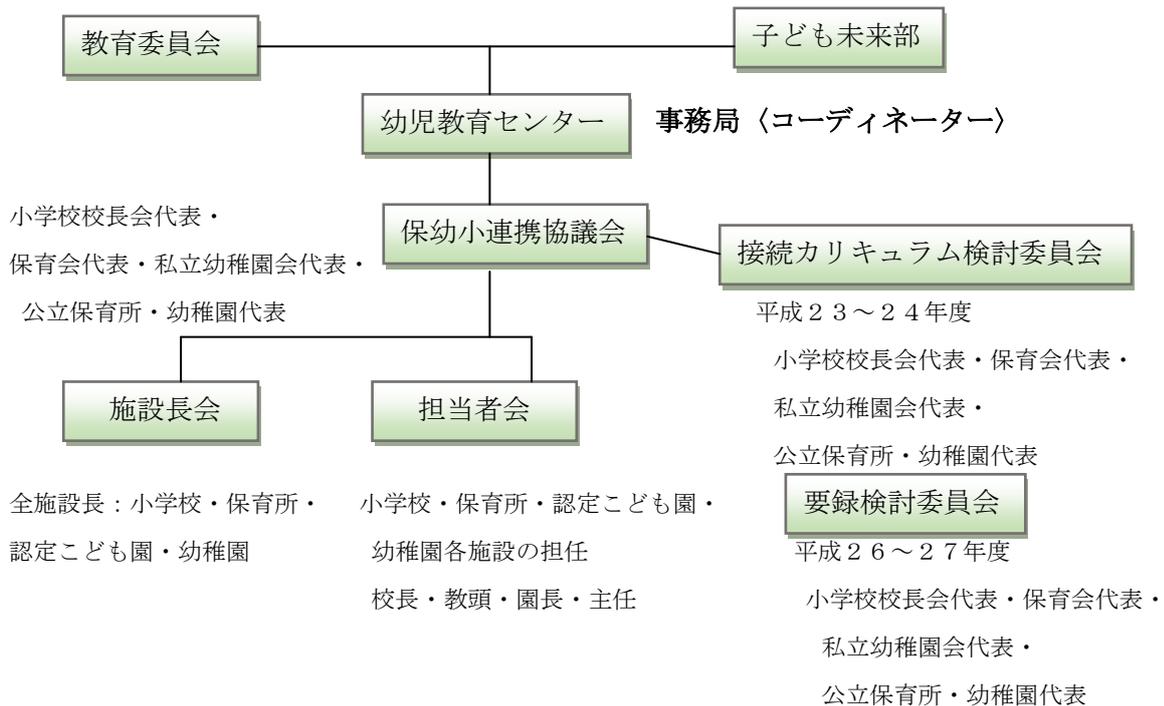


就学への円滑な接続への期待

小学校の立場から

気になる子どもの入学前後の様子把握

平成22年度＜保幼小連携協議会＞立上げ



平成24年度接続カリキュラム発行

* 12月に全施設に配付 * 平成26年4月増刷、配付

幼児期の教育・保育と小学校教育の相互理解を深め、相違を認識しながら、連続性・一貫をもった構成とし、接続カリキュラムの視点として、「接続期に育てたい力」＜生活する力・かかわる力・学ぶ力＞この3つの力をバランスよく育てることをめざし作成された。

保幼小連携推進会議

(年2回)

内容

第1回(5月～6月頃)

①保幼小連携の取組み
について

②全施設長会の開催に
ついて

第2回(1月～2月頃)

①今年度の実施報告と
アンケート分析

②次年度の進め方

保幼小連携施設長会・講演会同

時開催 (年1回)

施設長会・・・夏休み中

出席者：全施設長(160名)
(保育所・認定こども園・幼稚園・
その他の保育施設・小学校)

内容：小学校ブロック別施
設長会(7ブロック)

講演会：施設長会と同日

出席者：全施設長・職員

内 容：理論的に保幼小連携を学ぶ

保幼小連携担当者会

(年2回)

開催期日・場所

4月～5月：小学校区ご
と(49校で開催)

12月～1月：小学校区
7ブロックで開催

内容：

①年間交流計画

②情報交換などについて

※ 研修会は保幼小の保育士・教諭・教師50～60名の参加がある。

※ 施設長会は小学校長の参加がある。

※ 効果としては、幼保は従来、小学校長との繋がりがなかったのが良かったとのことでした。

～接続期に育てたい力～

生活する力とは

環境の変化に適応する力
や身辺自立・生活習慣に関する力

- ① 保育室・教室環境
- ② 一日の生活の流れ
- ③ 身の回りの始末
- ④ 食事・排泄

かかわる力とは

様々な人とかかわりあいながら自己を発揮し、共に生活をつくり出す力

- ⑤ 規範意識
- ⑥ 聞く・話す・伝え合う
- ⑦ 友達との関係づくり
- ⑧ 担任との関係づくり

学ぶ力とは

学習の基礎となる興味や関心、意欲、能力などを発揮する力

- ⑨ 学びの芽生え
- ⑩ 運動・表現

～保幼小連携の進め方と段階表4ステップ～

- 1：無理なくできることから・・・＜互いの行事への参加、互いの研修会への参加＞
- 2：キーパーソンを位置づけて・・・＜各校・園で連携の窓口を一本化、キーパーソンの打合せ、学校全体、園全体で情報を共有化＞
- 3：互いの計画をつなげる・・・＜互いの年間交流計画への位置づけ、年度末に次年度の計画を立案＞
- 4：接続カリキュラムの作成・実施

《主な事業内容》

～保幼小連携段階表～

第1段階	(はじめの一步段階) 保幼小連携の啓発、近隣の施設・小学校の確認、研修会参加 近隣の施設・小学校について、どのくらいの規模で、どこにあり、どのような方針で運営されているのか、何人卒園児(入学児童)がいるのか情報を共有し、職員の顔合わせをする。
第2段階	(交流段階) 保幼小連携の推進、連絡体制の確立、保育・授業参観、行事への招待 ・保・幼・小お互いの年間計画の中に、乳幼児、児童の保育・授業参観、行事への招待を取り入れ子ども同士・教師間の交流活動を行う。
第3段階	(互惠性を求めた連携段階/接続カリキュラム試行段階) 保幼小連携の充実、互惠性のある連携活動、接続カリキュラム検討委員会の設置 ・乳幼児・児童の双方にメリットがある互惠性のある連携活動を進めていくために、教師

	間での事前打合せ、振り返り(評価)を行い、子どもの発達や学びの様子を把握し、接続カリキュラムの作成へとつなげていく。
第4段階	<p>(接続カリキュラム実施段階)</p> <p>保幼小連携の発展(評価・改善)、接続カリキュラムの作成・実施</p> <p>・第3段階までの保幼小連携を見直し、今後の課題を見出していき、接続カリキュラムを作成し、実施していく。</p>

《取組の特徴》

平成25年<要録>についてアンケート実施

保幼小連携の次のステップとして、保育所・幼稚園等の要録に関するアンケートを小学校へ行い、活用状況の実態把握。

平成26年度<要録検討委員会>

就学前幼児のための一層の理解を図るために、保育所・幼稚園等から小学校へ送付する「要録」の様式統一をめざし、平成26年～平成27年度で検討。

平成27年度保育所、認定子ども園、幼稚園要録様式統一

最終学年の要録様式を統一し、保育所・幼稚園等に対する説明会を行う。
平成27年度より、新要録様式に記入し小学校へ送付することになった。

《今後の取組について》

- 平成27年度から<保幼小連携接続カリキュラム>の内容について考察を行っている。

平成27年度:「かかわる力」

平成28年度:「生活する力」

平成29年度:「学ぶ力」



公開保育・公開授業・講演会において、
子どもの姿を通して考え合う。

- 保幼小の幼児・児童理解に努め、それぞれの職員の専門性を尊重し、伝え合い、深め合う関係性をつくり、保幼小連携の更なる推進を図っていく。

《所 感》

佐世保市では、「保幼小連携年間交流計画」を作成するなどし、連携のための積極的な取組みが行われています。そして、各担当者間の顔の見える連携と情報共有の関係が築かれ、保育所・幼稚園と小学校の滑らかな「生活の接続」と「学びの接続」を考え、互いを理解し見通しを持った幼児保育・幼児教育の先進的な取組が構築されていました。小野市においても、幼児保育・教育を進めて行く中で、子ども達が小学校へ入学後、つ

まずくことなく、スムーズな接続ができるよう、取組みを更に進めるべきと思いました。佐世保市の全市的な保幼小連携のシステム化と「保幼小連携カリキュラム」を学ぶことは、大変参考となる調査でした。

平成 29 年 7 月 13 日

小野市議会議長 山中 修己 様

総務文教常任委員会

平田 真実

印

行政視察報告書

先般、実施しました 総務文教常任委員会 行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 平成 29 年 7 月 5 日（水）～平成 29 年 7 月 7 日（金）

2 視察メンバー

川名善三委員長、小林千津子副委員長、富田和也委員、高坂純子委員、河島信行委員、前田光教委員、山中修己委員、平田真実、 随行者：上月美保課長補佐

3 視察先及び調査内容

(1) 佐賀県鹿島市（人口：約 3 万人、 面積：112.12 Km²）

スポーツ合宿誘致の取組について

スポーツ資源を活かしたまちづくりの一つとして平成 23 年度から取り組まれているスポーツ合宿の誘致事業について

(2) 佐賀県神埼市（人口：約 3 万 2 千人、 面積：125.13 Km²）

放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的運営について

放課後子ども総合プランについて

(3) 長崎県佐世保市（人口：約 25 万 7 千人、 面積：426.06 Km²）

①徳育の推進について

②保幼小連携接続カリキュラムについて

保育所・認定こども園・幼稚園から小学校へ、就学を滑らかに繋ぐための取組

4 調査結果

【第1日】

佐賀県鹿島市

人口 約3万人 面積 112.12 Km²

≪視察項目≫

スポーツ合宿誘致の取組について

≪視察内容≫

【経緯】

これまで市内で行われてきた公認鹿島祐徳ロードレース大会の60回記念（平成23年2月27日）に、関東学生陸上競技連盟所属大学から明治大学・東洋大学・大東文化大学・日本大学の大学が初めて参加したことをきっかけに、関東学生陸上競技連盟所属大学関係者が鹿島市内のクロスカントリーコースと陸上競技場を視察した。元々は市民向けに整備されたクロスカントリーコースであったが、クロスカントリーコースと陸上競技場が隣接している環境の良さに注目され、スポーツ合宿の検討を示唆されたことから、平成23年度より合宿誘致を実施している。

【運営方法】

鹿島市スポーツ合宿誘致実行委員会（委員数10名）によって運営されている。実行委員長に市体育協会会長、副実行委員長に市生涯学習課課長・学識経験者、事務局長・監事・事務局員は市体育協会・市教育総務課・市生涯学習課の職員が務める。

【合宿団体への優遇措置】

- ・施設使用料の減免
- ・市内移動時のレンタカー提供
- ・市バスを利用した空港までの無料送迎

【合宿団体への助成制度】

招へい団体（延べ宿泊人数100人以上）、一般団体（延べ宿泊人数20人以上）共に、

- ① 市内のスポーツ施設で実施すること
- ② 連続した日程で実施すること
- ③ 練習を公開すること
- ④ 招へい団体については、市内学校への訪問や市民との交流、スポーツ教室の開催など交流事業を実施すること

などを条件に、招へい団体へは上限100万円で宿泊費と交通費の総額2分の1を助成、一般団体へは宿泊費30万円を限度に、宿泊費の2分の1を助成。

《所 感》

鹿島市には日本三大稲荷の一つである祐徳稲荷神社もあり、合宿団体が祐徳稲荷神社にて必勝祈願を行うなど観光資源にも恵まれている。スポーツ合宿誘致は、既存の施設を有効的に利用するための事業であるが、クロスカンントリーコースが陸上競技場に隣接している点が、陸上競技者にとっては非常に魅力的であり、陸上競技の合宿誘致に繋がっていることがわかった。具体的に直近では、箱根駅伝3連覇中の青山学院大学陸上部が合宿し、市内小・中・高・一般400名と陸上教室を通して交流するなど、市民や子どもたちの競技への興味や関心の向上、憧れや目標の対象といった影響もある。鹿島市は、合宿誘致事業を始めてから特に大きな環境整備を行ったわけではなく、クロスカンントリーコースの案内看板や距離表示板の設置を行うなどして、合宿団体への要望に応じており、小野市の浄谷黒川丘陵地の整備にも活かせると感じた。今後の課題の中で、ほとんどの団体が年明けから新年度への体制準備にかかる際に合宿を行っており、合宿日程が重なることも懸念されておられたが、小野市においても宿泊施設が多いとは言えないため、この辺りが課題となってくると考察する。また、誘致した団体の食事について、選手はホテルで食事を摂るわけではなく、実行委員会が市内の飲食店に食事提供を依頼し手配しており、食事についても、小野市で同様に合宿誘致を事業化するには課題が多いのではないかと考える。そして、スポーツ合宿誘致事業に取り組むならば、クロスカンントリーコースについての検討は必須であると感じた。市内の観光資源を大いに活用して、市内の中長距離コースを設定・推奨し、総合体育館アルゴやアクトのトレーニング施設や小野アルプス、白雲谷温泉ゆびかななどもトレーニング環境の一つとしてアピールできないものか、今後委員会でも質問していきたい。



【第2日】

佐賀県神埼市

人口 約3万2千人 面積 125.13 Km²

《視察項目》

放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的運営について

≪視察内容≫

●放課後子ども教室推進事業（文部科学省 HP より抜粋）

放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用し、子どもたちの安全・安心な活動拠点を設け、地域の方々の参画を得て、学習活動やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の取組を実施することにより、子どもたちの社会性、自主性、創造性等の豊かな人間性を涵養するとともに、地域の子どもたちと大人の積極的な参画・交流による地域コミュニティの充実を図る事業である。

●放課後児童健全育成事業（厚生労働省 HP より抜粋）

放課後児童健全育成事業は、小学校に就学している子どもであって、その保護者が労働等により昼間家庭にいないものに、授業の終了後に児童更生施設等の施設を利用して適切な遊び及び生活の場を与え、子どもの状況や発達段階を踏まえながら、その健全な育成を図る事業である。

【神埼市の放課後子ども教室：ドリームパーク】

対象：小学1年生から6年生までの希望者

開催日：隔週水曜日の月2回

回数：前期9回・後期9回の合計18回開催

時間：15時20分～16時40分

場所：市内各小学校の教室や体育館、運動場等

参加費：材料代として各期1,200円、保険料800円（保険料は放課後児童クラブの保険と共通）

定員：1教室につき、定員35名（市内小学校で合計15教室を開催中）

放課後児童クラブ利用者はドリームパーク終了後クラブへ移動、その他の児童は保護者の迎えが必要。

【神埼市の放課後児童クラブ】

対象：小学校1年生から6年生まで（平成19年度から上限を3年生から6年生に引き上げ）

開所時間：平日は放課後～18時、土曜・長期休業中は7時から18時（平成20年度から開所時間を8時から7時へ、平成21年度から土曜日も開所）

場所：市内7小学校に合計8クラブを開所

負担額：課業日は月額2,000円（別途クラブ費1,000円）、土曜日（課業日入会者のみ）は月額1,000円、長期休暇は別途設定有

【神埼市の取組の特徴】

・小学校敷地内で両事業を実施しているため、児童クラブ利用者も敷地内の移動だけで子ども教室に参加可能

- ・コーディネーターを各小学校に1名配置し、学校等関係機関との連絡・調整を円滑にしている
- ・児童クラブ・子ども教室・学校の代表者からなる運営委員会を組織し、情報共有、相互の協力体制を構築している

【放課後児童クラブの支援員】

常勤 31 名、非常勤 21 名、夏休み等は随時 15 名程度増員。一般的な時給は 830 円。

【今後の課題】

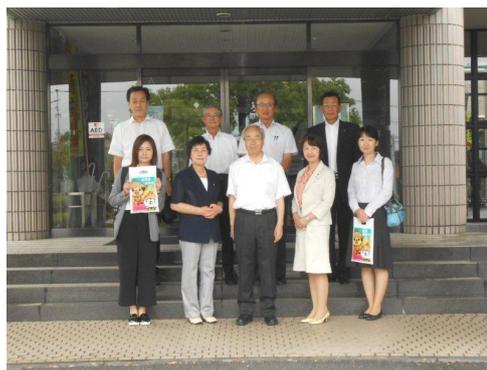
放課後子ども教室については地域ボランティアの発掘、放課後児童クラブについては夏休みに申し込みが増えるなどの希望者全員を受け入れるための対応、また 18 時以降の育成支援と 18 時以降の支援員確保が課題である。

《所 感》

ドリームパークは、各 1 名配置されているコーディネーターの存在が非常に大きいと感じた。前期・後期の内容も、コーディネーターが試行錯誤し考え、コーディネーター間でも情報共有が図れている。児童の参加率も上昇傾向にあり、地域のボランティア講師の方々のご協力の下、児童にとっても魅力的な内容を提供されている。

放課後児童クラブは、利用料が小野市に比べて非常に低いことも驚いた。支援員の人件費についても、小野市とは大きな差がある。支援員の方々の賃金を下げることが正しいとは考えないが、利用者の負担額についても考えるきっかけになった。また神崎市は、早朝や土曜日の体制が整っていること、小学校敷地内専用施設を設けている箇所もあることなどが魅力的であった。そして、NPO 法人の参画で 20 時までの支援体制も市内で整っていた。

神崎市では、放課後児童クラブも教育委員会が所管しているため、放課後児童クラブ・放課後子ども教室（ドリームパーク）・学校の連携が密接で、より子どもたちの実情に沿った支援ができていることや、小学校敷地内で放課後子ども教室と放課後児童クラブを実施されていることについては、小野市において今後さらに議論を深める際に参考にするべき点だと考える。市内の各小学校に専用施設を整備するなど容易に整うものではないが、総務文教常任委員会としても、現在の小野市の状況と寺子屋事業などの他事業とも連携し、検討を加えていく必要がある。



【第3日】

長崎県佐世保市

人口 約 25 万 7 千人 面積 426.06 Km²

≪視察項目≫

- ①徳育の推進について
- ②保幼小連携接続カリキュラムについて

≪視察内容≫

【徳育について】

徳育とは・・・道徳心のある、情操豊かな人間性を養うための教育

近年、社会経済や生活環境が大きく変化し、人々の生活も「個」を重視されつつあるが、人間関係の希薄化やモラル・マナーの欠如に繋がり、さらには地域コミュニティの衰退や想定外の事件が多発している。そのような中で、平成 22 年から大人も含めた徳育推進を図るべく、官民一体となって徳育推進の在り方を検討してこられ、平成 24 年度には「徳育推進のまちづくり宣言」を行った。学校や地域では一徳運動として、各機関や団体で一徳を具体的に掲げて浸透を図っている。こころ豊かな市民を目指して、市民の自主性を促すことが重要であり、市民運動として焦らず一步一步進めていきたいという担当者からの説明があった。

【保幼小連携接続カリキュラムについて】

・保幼小連携の進め方

平成 21 年度…保育所・幼稚園の立場から、そして小学校の立場から、就学への円滑な接続を期待し、気になる子どもの入学前後の様子を把握するために保幼小連携についてのアンケートを実施。

平成 22 年度…保幼小連携協議会の立ち上げ。教育委員会と子ども未来部から配置された現役の幼稚園教諭や保育士がコーディネーターとして活躍する幼児教育センター主導で、年に 2 回保幼小連携推進会議を開催。また、年に 1 回の施設長会（市内全施設長 160 名程）、年に 2 回の担当者会も開き、保幼小連携を理論的に学び、情報共有や、年間の交流計画を立てている。

平成 23 年度…接続カリキュラム検討委員会発足、翌年度カリキュラム発行。

平成 26 年度…要録検討委員会発足。

・保幼小 4 ステップ

- ① 互いの行事や研修会への参加を無理なくできることから進める。
- ② 各校・園で連携の窓口を一本化し、キーパーソンの打ち合わせ、学校全体・園全体で情報を共有化する。

- ③ 互いの年間交流計画への位置づけと、年度末に次年度の計画を立案し、互いの計画を繋げる。
- ④ 接続カリキュラムの作成・実施

《所 感》

佐世保市では徳育という大きな理念を掲げ、幼児から高齢者まで、「佐世保に住む人々が互いにつながり合っていくことで、絆が深まり、生涯にわたって生きることの楽しさを持つことができること」を目的として、徳育推進のための行動計画を策定されている。保幼小連携についても、職員一人一人がこのような意識のもとで取組まれているように感じた。佐世保市内には全部で110の乳幼児施設があるにも関わらず、認可外や事業所内保育施設を含めた多様な幼児教育と市内全施設の質の向上に向け、幼児教育センターが中心となって研修会の情報提供や様々な情報共有をされている。幼児教育センターには、現役の幼稚園教諭と保育士が配置されており、現状をよく理解した職員がいるということも幼児教育センターがコーディネーターとして機能していることに大きく関係している。児童や幼児の情報を記載する要録様式について、保育所と幼稚園・子ども園での内容を統一化したことにより、小学校の先生方の要録に対する捉え方が変わったとのことであった。そして、保幼小の連携については小学校校長会のご理解を得ることの重要性を学んだ。佐世保市では、現役の幼稚園教諭や保育士が配置された幼児教育センターが、率先して子育て支援に関わる部分に入り込み事業に取り組まれている点が、小野市とは違った点である。現在も小野市において既に連携されている保幼小の取組を更に充実したものにするべく、保幼小連携の取組の進め方については、総務文教常任委員会でも議論していくことに効果があると考えている。



平成 29 年 7 月 20 日

小野市議会議長 山中 修己 様

総務文教常任委員会
高坂 純子 ⑩

行政視察報告書

先般、実施しました総務文教常任委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

- 1 視察実施日 平成 29 年 7 月 5 日（水）～平成 29 年 7 月 7 日（金）
- 2 視察メンバー
川名善三（委員長）、小林千津子（副委員長）、山中修己（議長）、河島信行、前田光教、平田真実、富田和也、高坂純子 以上 8 名
- 3 視察先及び調査内容
 - (1) 佐賀県鹿島市（人口：約 3 万人、面積：112.12K m^2 ）
スポーツ合宿の誘致の取組について
 - (2) 佐賀県神崎市（人口：約 3 万 2 千人、面積：125.13K m^2 ）
放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的運営について
 - (3) 長崎県佐世保市（人口：約 25 万 7 千人、面積：426.06K m^2 ）
 - ①徳育の推進について
 - ②保幼小連携接続カリキュラムについて

4 調査結果

【第1日】

佐賀県鹿島市

人口：約3万人、面積：112.12K㎡

《視察項目》

スポーツ合宿の誘致の取組について

《面接者》

鹿島市議会議長 松尾勝利 鹿嶋市教育委員会生涯学習課課長補佐 永石慎一
鹿嶋市議会事務局議事管理係長 迎 英昭

《視察内容》

○鹿島市スポーツ合宿誘致事業について

「経緯」

第60回記念公認鹿島祐徳ロードレース大会（平成23年2月27日）に、関東学生陸上競技連盟所属大学（明治大学、東洋大学、大東文化大学）から初参加があった。その、際競技連盟関係者が市内の施設の視察を行い、クロスカントリーコースと陸上競技場が隣接している環境の良さに注目したことにより、スポーツ合宿の検討を示唆され、鹿島市が平成23年度より合宿誘致事業を実施することになった。

「運営方法」

実行委員会（10名）を組織化した事業運営

実行委員長（市体育協会会長）副実行委員長（市生涯学習課課長・学識経験者）

事務局長・監事2名・事務局員4名（市体育協会・市教育総務課・市生涯学習課）

「事業推進体制」

市内の飲食店には食事の提供、市内宿泊施設は宿泊の調整、市内企業は協賛の協力、ポスターやチラシの掲示

「PR・周辺への周知」

歓迎看板、横断幕の設置→陸上競技場、市役所、駅前、練習場

合宿団体の旗の設置→市内各所（10か所）

フェイスブックの活用→[鹿島市スポーツ合宿誘致実行委員会](#) [検索](#)

「優遇措置」

- ・施設使用料の減免
- ・市内移動時のレンタカー提供
- ・空港までの無料送迎（市のバスを使う）

「助成制度」（鹿島市スポーツ合宿誘致事業交付金）

- ・招へい団体→延べ宿泊人数が100人以上。宿泊費は100万円を限度
宿泊費と交通費総額 1/2 交流事業などの実施（市内学校への訪問・市民との交流、スポーツ教室の開催）
 - ・一般団体→述べ宿泊人数20人以上。宿泊費は30万円を限度、宿泊費の1/2
- ※共通として、市内のスポーツ施設で実施・連続した日程で実施・練習を公開する

「市内への波及効果や影響」

競技への関心や興味が出てきた。異世代交流。憧れや目標になる。交流人口の増加
市内企業・大学からの協賛や差し入れ。地域の活性化。鹿島市のPR

「環境整備について」

合宿団体へのアンケートによる施設の不備、不満等の確認（例・クロスカントリーコースの案内看板や距離表示板の設置）

「今後の課題」

- ・合宿日程の調整・宿泊場所の手配・他競技の誘致・事業の周知・情報発信等

《所 感》

小野市では平成31年度末完成予定の浄谷黒川丘陵地に陸上競技場の整備が行われていて今回の視察はとても身近に感じる事ができた。蟻尾山公園には 鹿島市陸技場、鹿島市民球場、グランド・ゴルフ場があり公園の指定管理費は5,200万円程度と聞いた。維持管理の部分をどうしていくかも大切な部分である。

また、年間700～800万円の合宿団体への助成金を出していること、1つの大学に100万円出すこともあり、市民の中には子育て支援に回してほしいという意見がでていたのも事実である。

しかし、箱根駅伝の常連チームの大学がここを選ばれた生の感想は「練習環境の充実」「市民のぬくもり（町の中を走っていると声をかけてくれる。嬉しく感じる）」「食事、特にお米が美味しい！」お米を買って大学の寮で食べてもらったりとつながりも広がっているようだ。地元の方々の温かいおもてなしが何よりも魅力のように思う。一時期に集中しないように社会人陸上部の受け入れにも力を入れておられる。選手たちと一緒に練習してもらった子ども達が陸上の道へと進んでいる事例もうかがい、頼もしく思った。日本3代稲荷祐徳稲荷がタイの映画に出たことからタイからのお客が増えており、小野市のような風土で山田錦も多く生産されており、祐徳稲荷と日本酒を売りに外国人観光客の集客も見込んでいる。ぜひ外国人ランナーもおいで頂きたいものだ。

【第2日】

佐賀県神崎市

人口：約3万2千人、面積：125.13K㎡

《視察項目》

放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的運営について

《面接者》

神崎市議会議長 廣瀧恒明 神崎市議会議員文教常任委員長 蓑原忍

神崎市議会事務局事務局長 服巻勝則

神崎市教育委員会社会教育課社会教育係長 森永文恵

神崎市教育委員会社会教育課社会教育係主事 濱崎美穂

《視察内容》

「神崎市の放課後子ども教室（ドリームパーク）」

対象 小学1年生～6年生

開催日及び回数 月2回（基本隔週水曜日）

前期9回・後期9回合計18回 15：20～16：40 夏季休業中は15：00～16：20

原則 保護者のお迎え 放課後児童クラブ利用者はドリームパーク終了後クラブへ

開催場所 市内小学校の教室や体育館、運動場

参加費 材料代として前期・後期それぞれ1,200円 保険料800円

定員 1教室につき、35名 申し込み多数の場合は抽選

市内7小学校で15教室開催

参加率 平均25%前後 1校のみ約40%

「神崎市の放課後児童クラブ」

対象 小学校1年生から6年生まで 平成28年度から希望者全員を受け入れ

開所時間 平日・・・放課後から18：00 土曜・長期休暇 7：00～18：00

市内7小学校に合計8クラブを開所

負担金 平日 月額2,000円 クラブ費1,000円

土曜日 月額1,000円 クラブ費無し

春休み 1,000円 クラブ費500円

夏休み 4,000円 クラブ費2,000円

冬休み 1,000円 クラブ費500円

学年末 1,000円 クラブ費500円

※保険料800円

参加率 半数が入会している

「神崎市の取組の特徴」

- ① 小学校の敷地内で両事業を実施
- ② コーディネーターを各小学校区に1名配置
- ③ 児童クラブ・子ども教室・学校の話し合いの場

「平成 27 年度ドリームパークの取組」

生け花・豆腐造り・バトミントン・ランプシェイド・パソコン・茶道・勾玉造り
箱庭・剣道・お菓子作り・手話・焼き芋・化石を見つけよう・皿回し・・・

「今後の課題について」

○放課後児童クラブ

希望者全員を受け入れる体制作り（特に夏休み）

開所時間の延長（18：00 以降の育成支援）支援員の確保（18：00 以降）

○放課後子ども教室

人材確保（地域ボランティアの発掘）

《所 感》

小野市で例えるとアフタースクール事業と寺子屋事業に該当すると考える。やはり教育委員会と福祉部門ということで神崎市さんも難しい部分もあると教えて頂いた。

放課後子ども教室の利用が半分弱ということだが背景には3世代であったりする地域性が感じられる。どこも同じであるが、コーディネーターの方の高齢化・人材不足は否めない。しかし、コーディネーターの方々が考えられるメニューはアイデアが溢れ、興味深く、きっと子ども達は目の色を変えて夢中になっているのではないかと想像してしまう。

報酬は随分抑えてあるのでそのあたりも難しいのかもしれない。しかし学校の敷地内で安心安全に子ども達を放課後見て頂くことができるのは、働く保護者にとって大変嬉しいことである。

【第3日】

長崎県 佐世保市

人口：約 25 万 7 千人、面積：426.06K㎡

《視察項目》

①徳育の推進について

②保幼小連携接続カリキュラムについて

《面会者》 {幼児教育センターにて視察}

佐世保市議会事務局議会運営課議事調査係 楠元崇浩

佐世保市教育委員会社会教育課課長補佐兼指導係長 中村明宏

佐世保市教育委員会社会教育課主事 公文拓馬

佐世保市役所子ども未来部

佐世保市教育委員会佐世保市幼児教育センター 所長 香田尚美

〈視察内容〉

○徳育促進のための行動計画

「徳育」とは道徳心のある、情操豊かな人間性を養うための教育であると解釈されている。つまり、人が人として生きていくための心の学びであり、豊かな生涯を生き抜くための心の教育である。

・佐世保市民が目指す心豊かな市民像「感情と思いやりの心を持ち、自分を律し、勇気をもって社会や他人のために何かできる人」

スローガン「徳育できらっと光る佐世保市民」－とどけよう明るい笑顔 伝えよう感謝の心－

・事業推進体制

行政が直接市民へ働きかけることは、結果的に強制や押しつけになってしまう恐れがあるとの報告から「徳育推進に賛同する民間の団体が推進を行う。具体期には、推進母体としての機能が充実するまで、現在の佐世保市と徳育推進会議の委員を基本に、新たに關係する他の団体、機関にも参加を呼びかけたうえで新しい団体を設立して頂き市は、推進母体の設立と後の運営について支援する。将来的には、市内の賛同するより多くの団体や企業、NPOなどの参画を得ながら、より一層の組織の充実を図る。市民運動としての定着、発展していくことが望まれる。

※平成 28 年度主な活動実績

- ・徳育推進フォーラム 保育園児なども参加
- ・広報させば「徳育通信」聞いて”得“する話
- ・一枚一徳運動 いつでもどこでもできる
- ・ラッピングバス
- ・徳育ステッカー
- ・徳育推進カレンダー全戸配布

※今後について

10 年計画を立てているので、次回平成 32 年の施策として考えていく。学校教育の中でも今後取り入れていきたい。民間団体だが生涯教育の下にぶら下がっている状態なので、今後の展開も考える必要がある。

○保幼小連携接続カリキュラムについて

「幼児教育センター経緯」

社会の急激な変化に伴い、子どもを取り巻く環境が大きく変化している。人格形成の基礎を養う幼児教育・保育のあり方を考えていくことは、緊急の課題である。幼児教育の充実向上のため 保育士・幼稚園教諭・市の職員との連携したスタッフがそろっている「幼児教育センター」である。平成 22 年に立ち上げた保幼小連携協議会から始まり、

保幼小連携推進会議（年 2 回）保幼小連携施設長会・講演会同時開催（年 1 回）保幼小連携担当会（年 2 回）

佐世保市では、佐世保市幼児教育センター主導のもと、平成 27 年度より「新要録様式（佐世保版）」を作成し、保育所・認定子ども園・幼稚園及び小学校を対象に「新要録様式」を使用している。

佐世保市のように、自治体が主導して、保育所と認定子ども園、幼稚園のそれぞれの要録を小学校との連携を視点において新規作成し、実施する例は稀である。

特に幼稚園指導要録の学籍の記録と指導の記録を合わせた 1 枚で作成するのは先進的である。

「新要録様式（佐世保版）」に対する保育所・認定子ども園・幼稚園と受け取り側の小学校との意識の差を検証することは意義深い。

※保幼小連携段階

第 1 段階 {はじめの一步段階} 保幼小の連携の啓発、近隣の施設・小学校の確認・研修会参加

第 2 段階 {交流段階} 保幼小の推進、連結体制の確立、保育、授業参観、行事への招待

第 3 段階 {互恵性を求めた連携段階/接続カリキュラム試行段階} 幼保小連携の充実、互恵活動、接続カリキュラム検討委員会の設置

第 4 段階 {接続カリキュラム実施段階} 保幼小の連携の発展（評価・改善）接続カリキュラムの作成・実施

「今後の取組み」

公開保育や公開授業・講演会などを行い子供の姿を通して考えあう。

保育所・幼稚園等と小学校を滑らかにつなぐ。

《所 感》

「徳育」については日本人として一人の人間として当たり前であり忘れてはいけない大事なことである。それを行政が行うのではなく民間団体という発想は素晴らしいと思う。ご説明の中でも言われていたが自治会単位でも限られた方が、フォーラムなど子どもの演奏などで親も巻き込んで参加してもらう方法もその後の啓発に伸び悩むのはどこも一緒である。市民への周知の難しさと持続することの大切さを学んだ。

「保幼小連携接続カリキュラム」について

一言で素晴らしいと感じた。特に、保幼の先生方は小学校の見えない垣根をととても高く感じておられたように思う。それが密に連携することで就学した時の子どもに対するしっかりした準備やフォローが出来ることが保護者にとってはとても有難いことです。

統一した児童要録の作成に至るまで 随分大変だったこととお聞きしたが、困難を乗り

越えて作成された要録は子どもの成長に大いに役立つし期待される。もちろん保護者にとってもである。教育委員会と福祉という担当部署が違うことで色々あるとも伺ったが、幼児教育センターのスタッフの方を拝見して安心してお任せできる場所と再確認した。今後の小野市でも統一要録等取り入れられるのではとも思っている。徳育を発信されておられるからかもしれないが 担当スタッフの皆様はじめ「おもてなし」も勉強させて頂いた。

平成29年7月13日

小野市議会議長 山中 修己 様

総務文教常任委員会

河島 信行 印

行政視察報告書

先般、実施しました総務文教常任委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 平成29年7月5日（水）～平成29年7月7日（金）

2 視察メンバー

総務文教常任委員会

川名善三（委員長） 小林千津子（副委員長） 富田和也 平田真実
高坂純子 河島信行 前田光教 山中修己

3 視察先及び調査内容

（1）佐賀県 鹿島市

（人口：約3万人、面積：112.12Km²）

① 「スポーツ合宿誘致の取組」について

（2）佐賀県 神埼市

（人口：約3万2千人、面積：125.13Km²）

① 「放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的運営」について

（3）長崎県 佐世保市

（人口：約25万7千人、面積：426.06Km²）

① 徳育の推進について

② 保幼小連携接続カリキュラムについて

4 調査結果

【第1日目】

佐賀県 鹿島市

〈視察項目〉

1 「スポーツ合宿誘致の取組」について

〈視察内容〉

(説明者等) 市議会議長 松尾 勝利
議会事務局 議事管理係長 迎 英昭
教育委員会 生涯学習課 課長補佐 永石 慎一
(社会教育・文化係・スポーツ係)

① 「鹿島市スポーツ合宿誘致事業」について

- ・誘致事業の経過
- ・運営方法について
 - ・PR・周知方法について
 - ・優遇措置・助成制度について
 - ・市内への波及効果や影響について
- ・環境整備について
- ・今後の課題について

〈所感〉

- ・鹿島市の知名度を全国に広める効果があるので、事業は継続される価値はある。
- ・体育協会が「スポーツ合宿誘致実行委員会」の中心的役割を担っておられることは現実的で市を挙げての取組を推進していくと思う。
- ・陸上競技・駅伝の有名大学（青山学院大学、明治大学、大東文化大学、東洋大学、日本体育大学等）の誘致に成功されていることはすばらしい。
- ・総合公園（蟻尾山公園）の中に、鹿島市陸上競技場、市民球場を整備され、クロスカントリーコース、ミニスポーツ広場、花見広場、サブグラウンドそしてナイター設備も完備されている。スポーツに対する市行政の積極的な姿勢を高く評価します。
- ・宿泊施設ならびに周辺の飲食店の温かい協力を感じる。
- ・さらに「スポーツ合宿誘致」を推進するため、陸上競技だけでなく、他のスポーツ競技団体・大学・高等学校にPRされるとさらによいと思う。
- ・宿泊施設が十分でない点が気がりである。
- ・ホテルの誘致も視野に入れられたらと思う。
- ・事務局（教育委員会生涯学習課）は、合宿受け入れの時期は特に多忙を極められている模様である。（繁忙期の臨時職員の募集をされるといかがと思う。）

(参考事項・市内の名所)

- ・「祐徳稲荷神社」は、日本三大稲荷のひとつに数えられる。

【第2日目】

佐賀県 神埼市

〈視察項目〉

「放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的運営」について

(説明者等)

教育委員会 社会教育課 社会教育課係長 森永 文恵

教育委員会 社会教育課 社会教育課係 主事 濱崎美穂

議会事務局長 服巻 勝則

市議会 文教常任委員長 蓑原 忍

〈視察内容〉

1 放課後対策としての取組

① 放課後子ども教室・ドリーム教室の運営 (文部科学省)

- ・目的 子どもを対象として、安全・安心な子どもの活動拠点(居場所)を設け、地域の皆さんの参画を得て、学習やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の機会を提供する。
- ・対象者 小学1年から6年生までの希望者
- ・開催日及び回数 月2回 15:20~16:40

② 「放課後児童クラブ」の運営 (厚生労働省)

- ・目的 共働き家庭など留守家庭の小学校児童に対して放課後に適切な遊びや生活の場を与えて、その健全な育成を図る。
- ・開催場所 小学校の教室、体育館、運動場
- ・時間 放課後~18:00
- ・参加費 前期・後期 各1,200円
- ・定員 1教室につき、35名

③ 一体型の「放課後児童クラブ・放課後子ども教室」

- ・定義 共働き家庭等も含めた就学児童を対象に共通の活動場所において多様な共通プログラムを実施。
- ・活動場所 学校の余裕教室や特別教室(家庭科室、理科室、ランチルーム等)

〈所感〉

1 一体型の放課後児童クラブの特色・長所

- ・児童クラブ利用児童も敷地内の移動なので、安全かつ子ども教室に参加可能で現実的である。
- ・コーディネーター(各小学校につき1名配置)により学校関係機関との連絡・調整がスムーズになっている。

【第3日目】

長崎県 佐世保市

《視察項目》

- 1 「徳育の推進」について
- 2 「保幼小連携接続カリキュラム」について

《視察内容》

- 1 「徳育の推進」について
 - ① 徳育推進について
 - ・背景について
 - ・定義
 - ・徳のある人づくり
 - ・行動計画
 - ・実績
 - ② 保幼小連携接続カリキュラムについて
 - ・「保育園、幼稚園、小学校の連携カリキュラム」による実践

《所感》

- ① 「徳育の推進」について
 - ・地域コミュニティの衰退の現状を踏まえた効果的な実践である。
 - ・「徳育推進会議」は教育委員会だけでなく市民生活部、子ども未来部、保健福祉部すなわち市行政のすべての部で推進されていることは効果的な行政実践だと思う。
 - ・平成20年度から「徳育検討懇話会」を設置され、今日に至っておられる。
 - ・地道な活動であるが、徐々に効果はあらわれると思う。
- ② 「保幼小連携接続カリキュラム」について
 - ・保育園、幼稚園、小学校の連携カリキュラムによる実践は、園児、児童を主役に考えた理想的な取組と考える。
 - ・佐世保市は、「幼児教育センター」を中心的な役割に据えている。
 - ・「幼児教育センター」施設は、
 - 1階（白南風幼稚園・5歳児保育室、4歳児保育室、3歳児保育室）
 - 2階（子育て相談室、もぐもぐルーム、調理室、大研修室）（付け加えると、敷地内には白南風小学校がある。）
 - ・日本の先進的なこの「接続カリキュラム」は全国に波及すると思う。

平成29年7月19日

小野市議会議長
山中修己様

総務文教常任委員会
前田光教 印

行政視察報告書

先般、実施しました総務文教常任委員会行政視察の結果について、
下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日

平成29年7月5日（水）～平成29年7月7日（金）

2 視察メンバー（総務文教常任委員会）

川名善三（委員長） 小林千津子（副委員長） 富田和也 平田真実 高坂純子
河島信行 前田光教 山中修己 上月美保（議会事務局）



3 視察先及び調査内容

- (1) 佐賀県鹿島市 「スポーツ合宿誘致の取組について」
- (2) 佐賀県神埼市 「放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的運営について」
- (3) 長崎県佐世保市 「①徳育の推進について」
「②幼保小連携接続カリキュラムについて」

4 調査結果

[第1日 佐賀県鹿島市]

人口 29,961人 10,787世帯（平成29年6月30日現在）

面積 112.12km² 人口密度 約267.2人/km²

●鹿島市

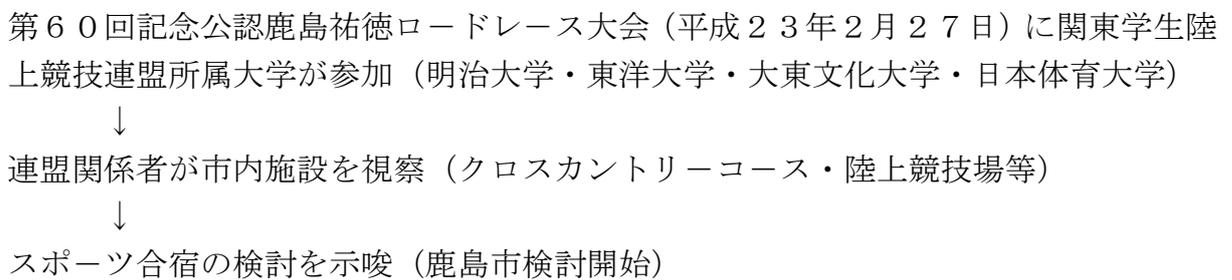
佐賀県の南部、佐賀市の南西約60kmの場所に位置し、市域東部は有明海に面し、市域南西部は長崎県と県境を成している。南に多良山系があり、南部はその麓で、いくつかの川が谷を刻む。北部は海岸沿いの平野で鹿島市街がある。

◀視察項目▶ スポーツ合宿誘致の取組について

「スポーツ資源を活かしたまちづくり」のひとつとして、スポーツ合宿の誘致を平成23年度から取組、多くの団体が自然豊かな環境での合宿地として鹿島市を訪れている。

●視察のポイント・要旨・要点

○誘致事業の経過



○運営方法について

実行委員会を組織した事業運営（委員数10名）
 実行委員長（市体育協会会長） 副実行委員長2名（市生涯学習課課長・学識経験者）
 事務局長・監事2名・事務局員4名（体育協会・教育委員会）

○PR・周知方法について

- ・誘致活動によるPR
- ・市報での広報
- ・チラシ・ポスターの掲示（市内協賛企業）
- ・歓迎看板・横断幕の設置（陸上競技場・市役所・駅前・練習場）
- ・合宿団体の幟旗の設置（市内各所・宿泊所・食事場所）
- ・フェイスブックの活用（鹿島スポーツ合宿誘致実行委員会で検索）



○優遇措置・助成制度について

施設使用料の免除・市内移動時のレンタカー提供・空港までの無料送迎

	招へい団体	一般団体
共通	市内スポーツ施設で実施・連続した日程・練習を公開	

宿泊	延べ宿泊人数100人以上	延べ宿泊人数20人以上
交付金	100万円を限度 宿泊・交通費の総額の2分の1	宿泊費は30万円を限度 宿泊費の2分の1
その他	交流事業の実施	

○市内への普及効果や影響について

- ・競技への興味・関心
- ・異世代交流
- ・鹿島市のPR
- ・地域の活性化
- ・憧れの目標
- ・市内企業・大学OB会からの協賛等
- ・交流人口の増加

○今後の課題について

- ・合宿日程の調整
- ・他競技の誘致
- ・宿泊場所の手配
- ・事業の周知・情報発信

《所感》

既存する施設である蟻尾山公園等（陸上競技場・クロスカントリーコース）を活用し、陸上競技（長距離）が主体であります。宿泊施設も多く存在しない自治体で、スポーツ合宿を受け入れ、地域の活性化に取り組まれているのは有効なことであると感じます。

合宿を公開、交流事業により、様々なふれあいの中から子ども達の未来への希望、憧れなどが培われ、鹿島市民力が育まれているものと感じます。

また、鹿島市には、祐徳稲荷（日本三代稲荷神社のひとつ）である神社があり、「勝守」のお守りは一部で報道され、勝運スポットとしても知られており、スポーツ合宿をきっかけとして地域の魅力再発見にも繋がっているものと思います。今後も注視すると共に参考にしていきたいと思ひます。



[第2日 佐賀県神埼市]

人口 31,914人 11,668世帯（平成29年6月30日現在）

面積 125.13km² 人口密度 約255.0人/km²

●神埼市

佐賀市中心部から北東約10kmの場所に位置し、南北に細長い市域をもち、北部は脊振山地の中にある。北に脊振山があり、南に行くほど標高は低くなる。南部は、筑後川北岸の佐賀平野にあり、中央部を城原川が貫通している。

また、南東部は筑後川を挟んで福岡県久留米市に接する。

《視察項目》 放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的運営について

実施主体はどちらも教育委員会社会教育課においてそれぞれ担当者が事業を実施している。同じ社会教育課なので当初より綿密な話し合いがなされ、一体感を感じる。

放課後児童クラブの子どもは毎日であるが、子どもの居場所づくり（ドリームパーク）は隔週水曜日に開催され、どちらにも参加している子どもが大半である。

《視察内容》

●視察のポイント・要旨・要点

○神埼市の放課後対策

①放課後子ども教室「ドリームパーク」（文部科学省所管）

全児童を対象とし、安全・安心な子どもの活動拠点を設け、地域の方々の参画により学習やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の機会を提供している。

対象・・・小学1年～6年生（希望者）

開催日・・・月2回（隔週水曜日）15時20分～16時20分

参加費・・・前期・後期各1,200円（保険料として800円）

定員・・・1教室35名（希望多数の場合は原則抽選）

②放課後児童クラブ（厚生労働省所管）

共働き家庭など留守家庭の小学校に就学している児童に対して、放課後に適切な遊びや生活の場を与え、その健全な育成を図っている。（児童福祉法第6条3第2項）

対象・・・小学1年～6年生

開催日・・・放課後～18時00分 土（長期休業中）7時～18時00分

クラブ数・・・8クラブ（市内小学校全7校）

○取り組みの特徴について

①. 小学校敷地内で両事業を実施

②. コーディネーターを各小学校に1名配置

③. 児童クラブ・子ども教室・学校の話し合い（運営委員会を組織）・情報の共有

○一体型の流れについて

放課後（児童クラブ） → 15時10分 希望児童が子ども教室に移動 →
15時20分 教室の開催「ドリームパーク」 → 16時40分 終了 →
16時50分頃 児童クラブ → 18時00分 閉所

○今後の課題について

①放課後児童クラブ

・希望者全員を受け入れるための対応と閉所時間の延長（18時以降の育成支援）

- ・ 支援員の確保（18時以降）
- ②放課後子ども教室
 - ・ 人材確保（地域ボランティアの発掘）

《所感》

神埼市の大きな特徴として、行政の縦割り政策で担当課を設けるのではなく、機能しやすいために教育委員会でそれぞれの事業を担っています。



子ども（児童）を中心に考え、使用する施設は小学校の空き教室等、それぞれの事業内容に異なりはあっても連携しやすい組織体制であると感じました。

手続き上での困惑は考えられますが、試みとしては大切なことと感じます。また、行政規模などから考えても、神崎市ならではの施策として感じました。

現在、放課後児童クラブは、隔週水曜日に開催されていますが、毎日実施することが望まれていよう

で、方策、予算、人材の確保、内容、場所の確保等が今後の課題として模索されています。

また、団塊世代の方々の活躍の場の創出として、子どもの居場所づくりが地域の高齢者の居場所づくりと繋げていくことも模索されており、神埼市のひとつの地域得策として感じました。

【 第3日 長崎県佐世保市 】

人口 254,180人 121,231世帯（平成29年4月1日現在）

面積 426.06km² 人口密度 約596.6人/km²

●佐世保市

長崎県北部の中心都市で、長崎県では長崎市について2番目、九州では9番目に多い人口を擁し、県庁所在地ではない「非県都」としては比較的大きな規模を持つ都市であり、国から中核市及び保健所政令市の指定を受けている。

かつて旧海軍四軍港（横須賀・呉・佐世保・舞鶴）のひとつとして鎮守府が置かれ、現代でも自衛隊や在日米軍の基地として伝統を受け継ぐ、造船および国防の町として知られる。

また、西海国立公園に指定されている九十九島や日本最大級のテーマパークであるハウステンボスに代表される観光都市でもある。しかし、長崎市とは離れているため、経済圏は異なる。

- 《視察項目》
- ①徳育の推進について
 - ②保幼小接続カリキュラムについて

佐世保市では、徳育の在り方を検討する諮問機関「佐世保市徳育推進会議」から提出された「徳育推進のための行動計画」提言書において、「徳育推進のまちづくり」宣言の提案があり、議決を経て、平成24年4月1日に開催した市制施行110周年記念式典で宣言を行った。

これをきっかけに「人を思いやる心、優れた人格を養う」徳育を推進し、互いに絆を深め、一人一人が生きる喜びを持てるようになることを願い、すぐに成果が見えるものではなく、長い時間を必要とするが、佐世保をより明るく、住みよいまちにするための運動として展開している。

幼児教育センターでは、平成17年度より、保幼小連携講座を開設し、保育所・幼稚園・小学校の教育や生活を互いに学びあい、保幼小連の理解・推進を行っている。

平成22年度には、「保幼小連携協議会」を立ち上げ、推進会議・施設長会・担当者会を開催し、保幼小連携の全市的なシステム化を図り、その後、保育所・幼稚園と小学校の先生方と平成24年に長崎県で初めて「保幼小連携接続カリキュラム」を作成した。

＜視察内容＞

●視察のポイント・要旨・要点

○徳育とは

道徳心のある、情操豊かな人間性を養うための教育（徳育推進のための行動計画）と定義されている。

○徳育推進の背景について

近年の社会経済や生活環境は大きく変化・変動し、人々の生活も「個」を重視し、一見便利の良い時代へと変化している様に思われるが、人間関係の希薄化やモラル、マナー欠如が感じられ、加えて地域コミュニティの衰退、また、想像できない事件の多発する時代への危機感から徳育の推進となる。

平成24年2月27日

「徳育推進のための行動計画

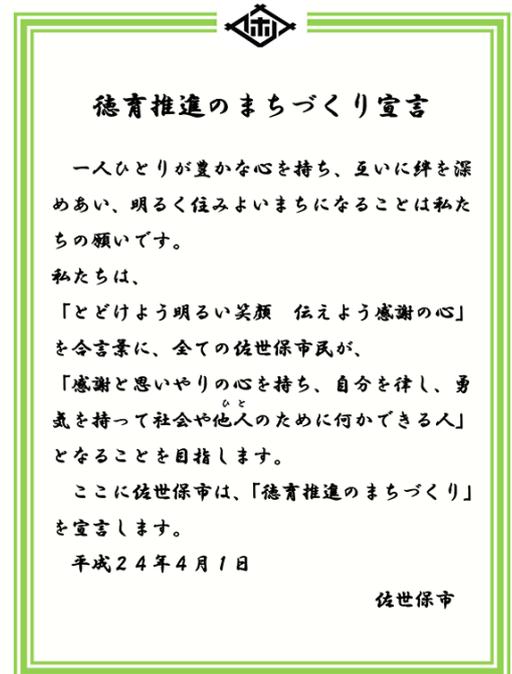
～こころ豊かな市民をめざして～」策定

平成24年4月1日

「徳育のまちづくり宣言」

○保幼小連携接続カリキュラムについて

接続期（5歳児後半から小学校入学後7月まで）にある子どもたちが過ごしている乳幼児教育・保育施設は、遊びを中心とした教育・保育であるのに対し、小学校は教科等



の学習を中心とする教育と、その教育内容や指導方法が異なっている。

互いの違いを乗り越え、環境が変わっても、子どもが本来持っている能力を伸ばすことができるように配慮し合い、「生活の接続」と「学びの接続」を考える必要があると唱えている。

また、保育所・幼稚園の就学前教育・保育を単なる小学校の準備教育と捉えるのではなく、小学校以降の教育の「土台」と考え、保育者が見通しをもって「学びの芽生え」を援助しなければならないと考えている。小学校教育は、教師が乳幼児期に培った一人一人の「学びの芽生え」を意識して、指導にあたらなければならないとしている。

そこで、「保幼小連携接続カリキュラム」を策定し、佐世保市の保幼小連携を進め、未来ある子どもたちの健やかな成長と、子育ての一層の向上に繋げている。



《所感》

徳育の推進と幼保小接続カリキュラムの2本立てでの研修となりましたが、双方共に自然体で必要と感じられる内容でありました。

特に、接続カリキュラムにおいては、表面上での接続、引継となってしまうと未来ある子どもの健全育成に大きく影響をするものであり、繊細な配慮のもと、実施されることの重要性を再認識したところです。

小野市において14園の保育所と2つの幼稚園がありますが、幼児教育における相

違は無く、小学校への入学後もスムーズな学校教育と生活環境が保持されているものと思います。今回の視察研修から、子育て支援の視点で、子どもを軸とした現状の総合的な体制の確認、また、今後の接続システムの必要性の有無を調査したいと思います。

加えて、私感であるものの、地域力、国力の担い手たる子どもの直接的な支援である投資部分の考え、側面での支援である福祉部分の考え、今日においては双方が必要にあるものと感じるところから子どもを軸、また核とした考え方で地域政策についても考えてみたいとの想いが再浮上した視察研修でありました。

《今回視察での総合的所感》

今回の視察中において、7月4日まで北陸付近にあった梅雨前線が、7月5日から朝鮮半島から西日本付近に南下し、5日朝方、島根県西部で発達した雨雲が帯状に連なる線状降水帯が発生し、記録的な降水となった。

5日午後には、二方向から流れ込んだ湿った空気が福岡県朝倉市付近で合流し線状降水帯が発生、同じ場所で長時間猛烈な雨が降り続き、福岡県朝倉市、うきは市、久留米市、東峰村、佐賀県鳥栖市、大分県日田市などで1時間に100mmを超える雨量がレーダー観測から解析され、特に、朝倉市付近では3時間で約400mm、12時間で約900mmの雨量が解析され、気象庁以外が管轄する雨量計では、朝倉市寺内で5日15時20分までの1時

間降水量169mmを観測した。また朝倉市黒川の雨量計では5日20時50分までの9時間降水量778mmを観測するなど、その降水強度は激烈を極めた。1時間値は1982年長崎大水害において長崎県長与町で観測された187mmに迫り、9時間値は平成25年台風第26号において伊豆大島で観測された789.5mmに匹敵するなど、朝倉市の山間部では局地的に9時間にわたり、気象観測史上でも最大級の集中豪雨となった。

それらの影響で、一部鉄路が不通となり、移動苦戦した状況でありました。豪雨での被害を受けられた方々に対し、心よりのお見舞いを申し上げ、今後の対応に出来る限りの支援と協力をと思っております。

平成29年7月18日

小野市議会議長
山中 修己様

総務文教常任委員会
山中 修己 ⑩

先般、実施しました総務文教常任委員会の行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1. 実施日 平成29年7月5日（水）～平成29年7月7日（金）（3日間）

2. 視察先および調査項目

(1) 佐賀県鹿島市

①「スポーツ合宿誘致の取組」について

(2) 佐賀県神埼市

①「放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的運営」について

(3) 長崎県佐世保市

①「徳育の推進と保幼小連携接続カリキュラム」について

3. 同行者

川名善三委員長、小林千津子副委員長、富田和也委員、平田真実委員、高坂純子委員、河島信行委員、前田光教委員、山中修己、上月課長補佐（事務局）

4. 視察内容・意見・感想等

(1) 佐賀県鹿島市（人口：約3万人、面積：112.12km²）

面会者：市議会議長 松尾 勝利氏、議会事務管理係長 迎 英昭氏
教育委員会生涯学習課課長補佐 永石 慎一氏

(1)－①「スポーツ合宿誘致の取組」について

肥前鹿島駅に到着して、宿泊地のホテル「スカイタワーホテル」に荷物を置き、市役所に向かった。余談であるが、肥前、肥後（熊本）は地名として残っているが、「肥中」という呼び方は元々ないそうである。

鹿島市の特徴は、日本3大稲荷の1つ祐徳稲荷神社があり、その「勝守」はメジャーのレッドソックスがワールドシリーズで3連敗をしたとき、そのお守りをも

らって4連勝して優勝したことで有名になったそうである。また、有明海の海苔の養殖、お酒の蔵元が6軒あり、「鍋島」は世界一になり、これらが有名とのことである。鹿島市がタイ国の映画の撮影場所になったとのことで、タイ国からのインバウンドが多いとのことであった。

以下、テーマについて記す。

1) 事業の概要

スポーツ合宿誘致のアイデアは蟻尾山公園に陸上競技場、クロスカントリーコースなどがあり、これらを有効活用したいという発想から、このアイデアが生まれた。現市長が積極的に誘致を進めている。なお、蟻尾山公園には指定管理料として年間5,200万円支払っている。

事業の推進体制は実行委員会(10名)が実施し、招聘団体については宿泊施設、食事等まで、段取りをする。

平成23年大東文化大学及び明治大学の陸上部110名から始まり、平成28年度は705名の参加実績にまでなっている。主に箱根駅伝に出場している大学が多いようである。

2) 優遇措置・助成制度

施設使用料の減免、空港までの無料送迎、移動時のレンタカー提供等を行い、助成としては招聘団体MAX100万円、一般団体MAX30万円を宿泊費、交通費の1/2まで行っている。予算は次のとおり。

- ・平成23年200万円
- 平成24年450万円
- 平成25年560万円
- 平成26年410万円
- 平成27年505万円

3) メリット

- ・選手の声として、食事(温泉地、飲食店、ホテル)が良く、沿道の市民の声援が嬉しい。また、陸上競技場とクロスカントリーコースが隣接しているのが好まれている。
- ・子どもたちで大学進学して走りたいという子が出てきた。
- ・経済効果としては算出できないが、交流人口の増、地域の活性化に寄与している。将来への投資と考えるべきであろう。

4) 課題

- ・宿泊施設が少なく(ホテル1軒、温泉施設等)、招聘団体との日程調整が難しい。
- ・合宿誘致は2~3月に集中しており、他の期間の有効利用が課題。

〈所 感〉

面白い事業である。当市と似たような土地柄であり、市の施設を活かした取組として、参考にできると思われる。当市も公認の陸上競技場を整備中であり、クロスカントリーコースも隣接することは充分可能である。宿泊施設も問題なく、条件は整っている。小中学生の陸上に関する関心も高く、大学等とのコネクションができれば、地域活性化策として、一考の余地はあると思われる。

(2) 佐賀県神崎市(人口:約3万2千人、面積:125.13km²)

面会者: 市議会議長 廣瀧 恒明氏、文教厚生常任委員長 蓑原 忍氏
議会議務局長 服巻 勝則氏、
教育委員会社会教育課係長 森永 文恵氏、
教育委員会社会教育課主事 濱崎 美穂氏

(2)-①「放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的運営」について

昨日来の北九州地区の大雨で被災された福岡県朝倉市、大分県日田市の皆様にお見舞い申し上げます。その影響で我々のいる佐賀県も JR 在来線は全て不通になった。事務局上月さんの計らいで、先方の受入可否状況、ジャンボタクシーへの切り替え可否等確認をしていただき、ジャンボタクシーでの訪問となった。途中、田畑と水路は池のようになっていたり、道路が冠水していたりで、今回の大雨の悲惨さがうかがえる状況を目の当たりにした。今回のテーマとは関係ないが、あらためて、防災の大切さを痛感した次第である。

さて、神崎市ですが、遺跡や歴史的建造物等が多くあり、有名な吉野ヶ里遺跡があるところである。なお、視察は本庁ではなく、千代田支所で行った。ここに議会と教育委員会があるためである。合併特例債の関係で、近々市庁舎の建設を予定され、議会及び教育委員会は本庁へ行くことになる。

以下テーマについて記す。

1) 概要

神崎市の放課後子ども教室(ドリームパークと呼んでいる)と児童クラブはどちらも7つの小学校敷地内にあるのが特徴。つまり、放課後子ども教室は学校の空き教室や体育館、運動場などを使用し、対象者は全ての子どもで学習や文化芸術活動、地域住民との交流活動等の機会を提供している。一方、児童クラブは共働き家庭などの子どもを対象に、放課後に適切な遊びや生活の場を与えて、その健全な育成を図っている。

各小学校区にコーディネイターを1名配置しており、学校等関係期間との連絡調整を図っている。また、放課後子ども教室及び児童クラブ共教育委員会が担当していることも特徴的である。

一体型とは共働き家庭等も含めた全ての就学児童を対象に、共通の活動場所(学校の敷地内)において多様な共通プログラムを実施している。

以下、具体的な事項を記す。

2) 具体的内容

項目	子ども教室	児童クラブ
1. 開催日	月2回、年間18回	日曜・祝日・盆・正月以外毎日
2. 時間等	通常 15:20~16:40 夏季休業中各20分前	平日放課後~18:00 土・休業中 7:00~18:00
3. 費用	2,400円/年、 保険料1,600円 (児童クラブと共通)	平日3,000円(おやつ含) 土曜日1,000円 春・冬・学年末1,500円 夏休み6,000円
4. 定員	1教室につき35名	全8クラブで420人
5. 教室数	16教室(H29~)	8クラブ

3) 課題

- ・放課後児童クラブは希望者が多く(特に夏休みが多い)、全員受入の対応。
- ・放課後児童クラブ開所時間の延長(18時以降)。
- ・放課後児童クラブ支援員の確保(18時以降)…支援員の報酬830円/Hであり、低賃金も支援員不足の要因の1つ。
- ・放課後子ども教室は地域ボランティアの発掘等人材確保。

<所感>

学校施設内に放課後児童クラブ8クラブ及び放課後子ども教室16教室があり、学校・地域が一体となって放課後の子どもたちの育成に取り組んでいる。また、教育委員会がどちらも担当しているシステムで運営されており、共働きの益々増加していく兆候を鑑みて、見習うべき1つの姿である。

保育園、幼稚園施設をあわせて10園とのことであったが、ここと小学校との連携がテーマ外であり、あまり聴き出せていないが、これらも含め、幼児教育をどのように進めていくか、全国的に大きな課題である。

(3) 長崎県佐世保市(人口:約25万7千人、面積:426.06km²)

面会者:議会事務局議会運営課調査係 楠元 崇浩氏

教育委員会社会教育課課長補佐 中村 明宏氏、主事 公文 拓馬氏、

教育委員会幼児教育センター所長 香田 尚美氏

(3)-①「徳育の推進と保幼小連携接続カリキュラム」について

佐世保市は長崎市と勘違いする位、イメージ的によく似ている。ホテルまで、職員に迎えに

きていただき、目的地の「佐世保市幼児教育センター」まで時間が少しあったので、市内を案内していただいた。急な坂ばかりで、上から観る佐世保港を見渡す眺めは素晴らしいものであった。長崎市に見劣りはしないと思う。

研修については「徳育推進について」が1時間、「幼保小連携の取組」が後半1時間という時間配分で行われた。

以下内容を記す。

1)佐世保市における徳育推進について

近年、社会経済や生活環境は大きく変化・変動し、人々の生活も「個」を重視したものへと偏重されてきている。このことから、人間関係の希薄化、モラル・マナーの欠如に繋がり、地域コミュニティの衰退、想像もつかない事件の多発などが起きている。これらを踏まえ、心豊かな人づくりが必要と捉え、「徳のある人づくり」をコンセプトに平成22年頃より、検討し、平成24年2月「徳育推進のための基本計画～こころ豊かな市民を目指して～」を策定された。

平成24年4月には市制110周年記念の年をキックオフとして、「徳育推進のまちづくり宣言」を行っている。

具体的な推進策としては「広報させぼ」への掲載、「一校一徳運動」、徳育推進ポスターの路線バスへの掲示、バスのラッピングなど啓発、推進に努めている。

○課題

- ・市内への浸透が薄く、610町内会の内、270町の参加であり、町民への参加となるとさらに弱い。
- ・成果、効果の計測が難しい。
- ・徳育を広げる参画層が少ない。…10年の基本計画には入っているが、条例をつくる予定はない。

<所 感>

市長が先頭にたって、推進しておられる。今後、教科の中に「道徳」が採り入れられることが、決定されているようなので、注目される施策であると感じる。人間関係の希薄化、モラル・マナーの欠如等、昨今現実のものとなっているのは事実であり、何らかの形で取組んでいかなければならない事項であると感じる。

2) 佐世保市における幼保小連携の取組について

佐世保市の小学校は46校あり、幼児関係の就学前施設は110施設ある。内、公立幼稚園は5施設、他は私立で系列の施設が多く、ほとんどが認定保育園である。

幼児教育(主に公立幼稚園)の充実向上のため、平成15年「佐世保市幼児教育センター」が開設された。次に就学への円滑な接続及び小学校側から子どもの入学前後の様子の把握を目的とし、平成22年「保幼小連携推進会議」が立ちあがった。この時点で「幼児教育センター」は事務局コーディネイターとしての役割を担っている。具体的には、施設長会、担当者会、接続カリキュラム検討委員会、要録検討委員会などを実施している。なお、ここから平成24年度には接続時に育てたい力として、生活する力・かかわる力・学ぶ力をバランスよく育てるた

め、接続カリキュラムが発行された。また、平成27年度には最終学年の保育所、認定子ども園・幼稚園の要録様式が統一された。

保幼小連携段階表

第1段階	<p>〈はじめの第1歩〉</p> <p>近隣の施設・小学校について、どのくらいの規模で、どこにあり、どのような方針で運営されているのか、何人卒園児(入学児童)がいるのか情報を共有し、職員の顔合わせをする。</p>
第2段階	<p>〈交流段階〉</p> <p>保・幼・小お互いの年間計画の中に、乳幼児、児童の保育・授業参観、行事への招待を取入れ、子ども同士・教師間の交流活動を行う。</p>
第3段階	<p>〈互惠性を求めた連携段階/接続カリキュラム試行段階〉</p> <p>乳幼児・児童の双方にメリットがある互惠性のある連携活動を進めていくために、教師間での事前打ち合わせ、振り返り(評価)を行い、子どもの発達や学びの様子を把握し、接続カリキュラムの作成へとつなげていく。</p>
第4段階	<p>〈接続カリキュラム実施段階〉</p> <p>第3段階までの保幼小連携を見直し、今後の課題を見出していき、接続カリキュラムを作成し、実施していく。</p>

○メリット、問題点等

- ・保幼側から見ると小学校は敷居が高かったが、これが連携の取組により、ほぐれてきたと感じている。特に体験入学をしている小学校等において。
- ・小学校の体制が人事異動で変わることが問題。
- ・小学校の校長会の理解が全てである。

〈所 感〉

平成27年度に要録様式の統一化は、保幼よりで纏まっている。このことが上手くいっている秘訣のように感じた。

当市は規模も佐世保市ほど大きくはないので、「幼児教育センター」のようなものは必要ないかも知れないが、小野市流の小中一貫教育同様、保幼小連携システムは検討すべきではないかと感じた。

以 上